

明日の暮らし、ささえあう

CO・OP 共済



地域ささえあい助成

— 生協と他団体が協働する活動を応援します —

2024 年度 活動報告集



日本コープ共済生活協同組合連合会

| | |
|---------------------------------------|----|
| ● ご挨拶 | 5 |
| ● 地域ささえあい助成 2024年度の募集内容 | 6 |
| ● 地域ささえあい助成 2024年度のまとめ | 7 |
| ● 地域ささえあい助成事務局からのお知らせ | 17 |
| ● 地域ささえあい助成 2024年度フレンドリーサポートについて | 50 |
| ● 2024年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告 | 51 |
| ● 特集『協働のちからでよりよい世界を実現します』 | 53 |

協働たかめる助成

「協働たかめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て応援」の協働のまちづくり 9

生活協同組合しまね
島根大学 持続可能な地域社会構築のための地域政策に関する研究プロジェクト
特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便

公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生 13

生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
一般社団法人officeひと房の葡萄

フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て応援」の協働のまちづくり 事務局の現地視察報告 11

公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生 事務局の現地視察報告 15

2件 10,000,000円

「活動報告」ページの凡例

| | |
|---|-----------------|
| 県内の居場所紹介とメンタルヘルス講座 | 活動名 |
| ・一般社団法人富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会 ・とやま生活協同組合 | 協働団体名 |
| https://www.wakamono-yorisoi.net/ | 関連ウェブページ |
| 活動のきっかけ 富山県内の自殺者数は高止まりしている他、不登校や引きこもりの数は増加しており、孤立や孤独の解消が課題となっています。つながり等が希薄化した結果、対人関係で悩み、不調を訴える若者が増えている印象があります。2019年、県内における若者支援（ひきこもり・就労・精神保健等）の各団体が集まり、個々がおこなっている若者支援をより広範に、またつなぎ合うことで取りこぼしのない支援を実施するため活動を開始しました。 | 本文 |
| 活動内容概要 若者やその親、生協組合員、福祉関係者等を対象に県内の各居場所を紹介する他、県外講師を招き、メンタルヘルス講座を実施することで、孤立や孤独、生きづらさの解消をはかることを目指します。実施にあたり、若者にボランティアとして参画してもらいます。イベントは、生協や本協議会の各ネットワークを活用し、周知をはかります。実施にあたり、アンケートを実施し、評価やふり返しをおこない、次年度の活動に活かします。 | |

協働はじめる助成

「協働はじめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

協定産地と連携した若者就労支援プログラム 19

生活協同組合パルシステム東京
ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
一般社団法人くらしサポート・ウィズ

誰でも利用できるブックカフェと予約の いらない子ども食堂の運営 24

だーこキッチン
生活協同組合コープみえ

県内の居場所紹介とメンタルヘルス講座 20

一般社団法人富山県若者生きづらさ寄りそいネット
ワーク協議会
とやま生活協同組合

出前のびすく （地域における乳幼児親子の居場所づくり） 25

特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・
ネットワーク
みやぎ生活協同組合

誰もが集える居場所作り 富山型共生・共助コミュニティ ありみね 21

特定非営利活動法人ありみね
とやま生活協同組合

みんなの笑顔をつくる地域の居場所づくり 26

東都生活協同組合
一般社団法人チヨイふる

商品寄贈による社会福祉貢献活動 22

わかやま市民生活協同組合
社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

みんなの笑顔をつくる地域の居場所づくり 事務局の現地視察報告 27

六甲ウィメンズハウスにおけるコミュニティ カフェおよびフードパントリー活動 23

公益財団法人神戸学生青年センター
生活協同組合コープこうべ 第3地区本部

8件 3,030,051円



協働ひろめる助成

「協働ひろめる助成」を受けた活動の名称（白文字）と、協働してその活動に取り組む生協・団体の名称（黒文字）を一覧にて掲載します。数字は各活動報告の掲載ページです。

人と人がゆるくつながれる コミュニティカフェ「At Link café」の運営 29

特定非営利活動法人アットリンク奈良
市民生活協同組合ならコープ

らいむショップを通じた地域コミュニティの 再形成 35

生活協同組合コープみえ
社会福祉法人桑名市社会福祉協議会

地域の子ども達を元気にする「ふきのとう・ こどもクラブ（第三の居場所）」活動を広める 30

生活協同組合コープさっぽろ
公益財団法人ふきのとう文庫

耕作放棄地など地域資源を活用した 市民農園や体験農園を通して農業の担い手 育成や消費者が農業を学ぶ活動 36

わかやま市民生活協同組合
紀ノ川農業協同組合

あのね～食と居場所につながる地域の 子どもたちのセーフティネット 31

一般社団法人あのね
生活協同組合おおさかパルコープ

つながりインターンシップ@協同～若者が協同 の働き方を学び、どう生きるかを考える～ 37

一般社団法人くらしサポート・ウィズ
パルシステム生活協同組合連合会
社会的連帯経済推進フォーラム

視覚障がい者と健常者が共に行動できる 地域づくり 32

生活協同組合おおさかパルコープ
社会福祉法人日本ライトハウス

コープのびのび・ぴよぴよクラブ 38

広島中央保健生活協同組合
一般社団法人ふくしま文庫

環境問題や防減災も考えて！福島と福岡の絆の 「かぼちゃ」を育てるプロジェクト 33

エフコープ生活協同組合
東峰村えんプロジェクトの会

健康習慣で地域づくり 39

生活協同組合コープこうべ 第5地区本部
一般社団法人しんしんスポーツ・KOBÉ

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、 生協と米子市永江地区自治連合会協力による 地域支え合い活動 34

鳥取県生活協同組合
米子市永江地区自治連合会

「川で繋がる温泉街」地域交流促進事業 40

一般社団法人あまみら
生活協同組合コープおおいた

SOSを受け止められる社会へ、子ども支援者
育成事業 41

NPO法人こどもサポートステーション・たねとしく
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

ホームタウンみなみ 42

生活クラブ生活協同組合
認定NPO法人さくらんぼ
横浜みなみ生活クラブ生活協同組合

なんでも相談会・フードパントリー 43

北毛保健生活協同組合
渋川北群馬民主商工会

虐待を経験した子ども達の居場所・学習・
食事提供支援 44

特定非営利活動法人DV対策センター
東都生活協同組合

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクトに
よる、安定した子ども食堂の運営と
「居場所づくり」や地域課題へのかかわり 45

北海道生活協同組合連合会
連合北海道
北海道労働者福祉協議会
生活協同組合連合会大学生協事業連合北海道地区

地域住民の買い物支援、高齢者見守りおよび
生きがい創出などの地域支援関連活動 46

生活協同組合コープあきた
NPO法人南外さいかい市

LFA Japanとコープこうべが織りなす
食物アレルギーに優しいまちづくり 47

一般社団法人LFA Japan
生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

食を通して暮らしを豊かに
～多拠点型買い物支援と移動喫茶活動～ 48

東峰村元気プロジェクト
エフコープ生活協同組合
有限会社つづみの里
社会福祉法人東峰村社会福祉協議会

あったかフードバンク大泉 49

東京保健生活協同組合
あったかフードバンク大泉

21件 16,321,560円

総合計 31件 29,351,611円

※上記には決定後の都合で中止した活動は含みません。



2024年度を振り返って・・・

世界に目を向けると、戦争や紛争はおさまるところか、さらに分断が広がっているようにも思え、不安定な世界情勢が依然として続いています。また、世界的なインフレーションによる物価高はとどまらず、一段と厳しさを増す社会情勢が日々の生活に色濃く影を落とす中で、生活に困窮する人、社会から孤立する人、支援を必要とする人たちの数はこれまで以上に増えています。それに加え、2024年度は米価の高騰があり、本事業の助成を活用いただいているフードバンク等にも甚大な影響をもたらしました。人々の価値観も多様化し、地域の課題は複雑化しているいまこそ「人と人」「組織と組織」がつながり、お互いを理解し認め合いながら「協働」の力でさまざまな課題に取り組んでいくことが必要になっています。生協はこれまでも人々の暮らしを見つめ、生活に根差した声を聴き、共感を束ねながら、時代とともに変化する課題に向きあってきた組織です。助成金を活用される生協・団体の皆さんと成果を共有し、一緒に学びあい、本助成制度が「誰一人取り残さない地域づくり」にますます貢献していくことを願っています。

全国で32件の活動が展開されています・・・

日本コープ共済生活協同組合連合会が、社会貢献活動として2012年度に「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を開始されてから、2025年度で14年目を迎えます。2024年度にはこれまでの「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加えて、新たに「協働たかめる助成」が始まり、全国から41件のご応募がありました。審査委員会で選考をおこない、32件（「協働はじめる助成」9件、「協働ひろめる助成」21件、「協働たかめる助成」2件）の活動に対し、総額29,351,611円の助成を決定し、地域ささえあい活動が全国各地で展開されています。新たな協働区分「協働たかめる助成」では地域福祉にたずさわる複数の団体が対等の立場で活動のすすめ方を協議し、意思決定をする場（協議体）をもち、従来の取り組みからさらに一歩踏み出した取り組みが次々に生まれています。

こうした取り組みの結果、地域のつながりが強まり、地域社会全体への関心が高まり、暮らしのなかの身近な困りごとが深刻な問題になる前に解決されていく地域づくりがすすむと考えます。生協と地域の様々な団体の「協働」が本助成制度によってますます広がることを願っています。

2025年度に向けて・・・

2025年度の活動に向けて2024年10月～11月に3つの助成区分で募集をおこない、2025年2月に審査をおこないました。2025年度に助成する団体には、学生が運営する団体や多胎児を育てる家庭の支援をおこなう団体等もあり、いずれの活動も先進的で、チャレンジングで、学びや気づきの多い内容でした。本報告集が発行される2025年6月にはすでに助成、活動が始まっています。これまで以上に、学びあいが深まり、地域課題の発見や解決のための活動が広がることに期待しています。この報告集が、多くの皆様にとって、お互いの活動を知り、学びあい、より良い活動につなげるための一助になれば幸いです。



2025年6月吉日

2024年度 CO・OP共済 地域ささえあい助成 審査委員会 委員長 斉藤 弥生
(大阪大学大学院人間科学研究科 教授、放送大学 客員教授)

地域ささえあい助成

—生協と生協以外の団体の協働を応援します—

CO・OP共済は、2012年度から「地域ささえあい助成」を通じて、だれもが安心してくらせる地域社会の実現をめざし、生協と生協以外の団体が協働して地域の課題に取り組む活動を支援しています。本助成制度の2024年度助成分からは、従来の「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」に加え、「協働たかめる助成」の募集を開始します。

「協働はじめる助成」では、生協と地域の団体がはじめて協働する活動を助成しています。「協働ひろめる助成」では、生協と地域の団体が協働関係を広げたり深めたりしながら取り組む活動を助成しています。そして、「協働たかめる助成」では、広がった協働関係を持続的なものにしなが、地域の多様な課題に向きあい、人と人、組織と組織のつながりの力で解決していこうとする取り組みを支援していきます。

助成対象となる費用

助成を受ける活動に直接かかる費用（事業費）、または助成を受ける活動について協議する場（協議体）の運営にかかる費用（管理費）

選考方法

外部有識者およびコープ共済連、日本生協連関係者で構成する審査委員会にて審議のうえ、決定します。

3つの協働区分のちがい（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」「協働たかめる助成」）

協働の状況等に応じて、いずれの協働区分に応募するかご検討ください。

| 協働区分 | 協働はじめる助成 | 協働ひろめる助成 | 協働たかめる助成 |
|---------|--|--|---|
| 協働の状況 | 生協と団体が初めて協働して活動をこれから始める場合、もしくは協働した活動の開始から1年未満の場合 | 生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があり、その協働をさらに広げて活動する場合 | 生協と団体の間にすでに1年以上協働して活動した実績があること、助成開始時点で協議体が立ち上げられていること、協議体を構成する団体が3団体以上であること |
| 窓口団体 | 生協または生協以外の団体 | 生協を推奨 | 生協のみ (生協以外の団体からは応募不可) |
| 助成期間 | 1年間 | 1年間 | 2年間または3年間（応募時に選択） |
| 助成継続期間 | 一連の活動に対して1回（1年間） | 一連の活動に対して最大3年間（「協働はじめる助成」の助成期間を含めず） | 3年間まで（「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」の助成期間は含めません） |
| 助成金上限額 | 1つの活動について50万円 | 1つの活動について100万円 | 1つの活動について、年間500万円× 最長3年間=最大1,500万円 |
| 助成金総額上限 | 両区分合計で年間2,500万円程度 | | 年間2,000万円程度 |

● 助成対象となる活動

地域共生社会の実現に向け、生協と生協以外の団体が協働して取り組む、以下のいずれかの内容の実践的な活動です。

- ① 社会課題や地域課題の解決に向けた、地域における活動
- ② 暮らしに身近な課題やまだ広く知られていない課題の解決に向けた、地域における活動
- ③ 人と人や組織と組織をつなげ、取り組みを発展させていくための活動

● 応募要件

以下のAとBのいずれも満たす活動が応募できます。詳しくは応募要項でご確認ください。

- A 地域をささえつづけるために協議体をもつことで運営の安定をはかっていること
- B 地域の多様な課題の解決に向けてさらなる取り組みを展開しようとしていること

※各要件に関する具体的な確認項目をすべて満たす場合に応募いただけます。



地域ささえあい助成 2024年度のまとめ

地域ささえあい助成は2022年度に制度を改定し、「協働はじめる助成」「協働ひろめる助成」という2つの協働区分での助成を開始しました。そして、2024年度の助成からは「協働たかめる助成」の募集を開始しました。このページでは、2024年度の応募と助成の状況について概要をご報告します。

1. 応募と助成の件数

2024年度は41件の応募をいただき、そのうちの32件に対して総額29,851,611円の助成を決定しました。助成件数の内訳は、協働はじめる助成が9件、協働ひろめる助成が21件、協働たかめる助成が2件でした(表1)。

表1 応募と助成の件数と総額(金額単位:千円)

| 年度 | 2023年度 | | | 2024年度 | | | | 2025年度 | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|--------|
| | はじめる | ひろめる | 合計 | はじめる | ひろめる | たかめる | 合計 | はじめる | ひろめる | たかめる | 合計 |
| 応募件数 | 9件 | 33件 | 42件 | 13件 | 26件 | 2件 | 41件 | 12件 | 23件 | 0件 | 35件 |
| 助成件数 | 8件 | 27件 | 35件 | 9件 | 21件 | 2件 | 32件 | 8件 | 22件 | 2件 [※] | 32件 |
| 助成総額 | 3,364 | 20,583 | 23,948 | 3,530 | 16,321 | 10,000 | 29,851 | 3,626 | 17,691 | 10,000 | 31,317 |

※2025年度「協働たかめる助成」の新規応募はありませんでしたが、2024年度からの継続助成が2件あります。

2. 応募団体の地域分布

応募団体(第一団体)の所在地の分布は表2のとおりです。19都道府県から応募いただきました。

表2 応募団体の地域分布

| 地域 | 応募件数 | 内訳 |
|--------|------|----------------------|
| 北海道・東北 | 4件 | 北海道2件、秋田1件、宮城1件 |
| 関東・甲信越 | 11件 | 東京5件、神奈川3件、千葉1件、群馬2件 |
| 東海・北陸 | 6件 | 富山3件、福井1件、三重2件 |
| 近畿 | 14件 | 兵庫5件、大阪4件、奈良3件、和歌山2件 |
| 中国・四国 | 3件 | 広島1件、鳥取1件、島根1件 |
| 九州・沖縄 | 3件 | 福岡2件、大分1件 |
| 合計 | 41件 | 19都道府県 |

3. 助成した活動の 카테고리別の件数

助成先団体の取り組む活動の 카테고리別の件数は表3のとおりです(各活動を地域ささえあい助成事務局にて 카테고리別に分類しました)。

表3 助成した活動の 카테고리別の件数

| カテゴリー | 件数 |
|--------------------|-----|
| A. 居場所づくり | 6件 |
| B. 貧困対策・困窮者支援 | 1件 |
| C. フードバンク・フードパントリー | 3件 |
| D. 子育て支援 | 8件 |
| E. 健康づくり | 1件 |
| F. 障害者支援 | 2件 |
| G. 災害支援・防災 | 1件 |
| H. 買い物支援 | 0件 |
| I. DV対策 | 1件 |
| J. 過疎支援 | 2件 |
| K. その他 | 7件 |
| 合計 | 32件 |





活動報告

協働たかめる助成

助成件数 2件

助成金総額 10,000,000円

フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て応援」の協働のまちづくり

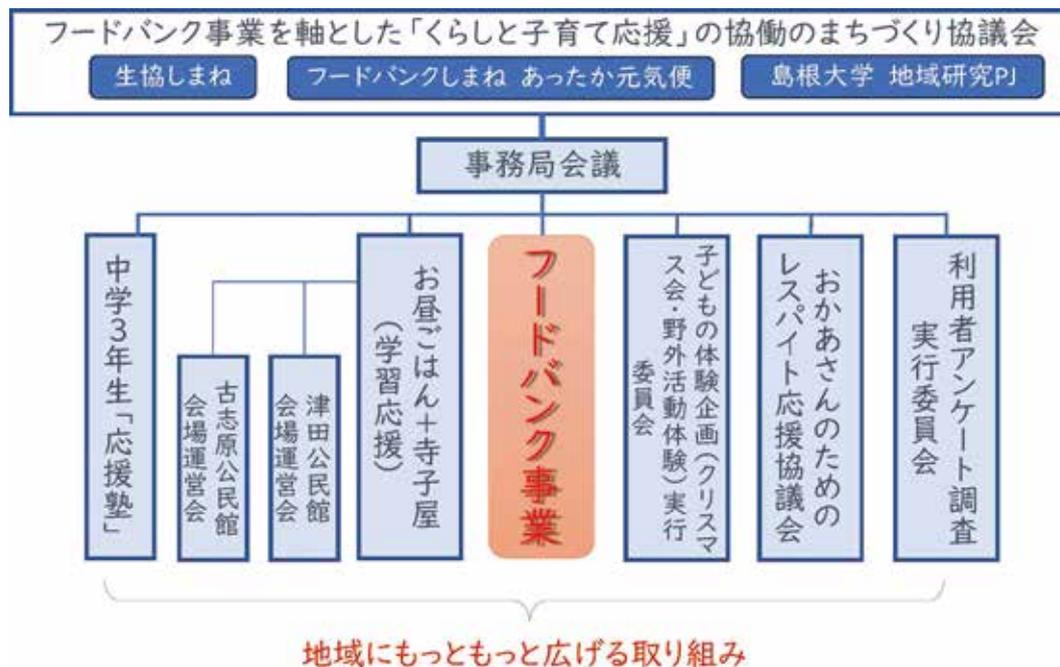
活動の具体的な内容

松江市の小・中学校に通う就学援助世帯の児童・生徒を対象に、給食のない長期休校期間の春休み・夏休み2回・冬休みの年4回を基本にフードバンクを開催しました。支える輪は、フードドライブ協力団体・企業115、ボランティア参加のべ1,828人となり、いずれも前年比130%余り広がりました。

この活動には学校の協力が必要です。就学援助世帯は学校を通して申込書を受け取り、保護者はフードバンクに直接申し込む仕組みです。

「学習と体験の場」の提供では、小学生を対象にした長期休暇期間の「お昼ごはん+学習応援」を市内の2箇所の公民館で地区民児協や地区社協との共催、協働し開催しました。また、「夏休み野外体験」、「クリスマス会」は、フリースクールや島根大学BBSと協働したほか、「田植え」、「稲刈り」、「のびのびキャンプ」、「キッズシアター」、「夏休みこどもだいがく」など、主催者と連携、協力し利用世帯の家庭に参加呼びかけをしました。「中学三年生進路・進学『応援塾』(10月～2月、月1回)を島根大学研究者やNPOスペース、島根大学BBSと取り組みました。「中学校卒業をみんなで祝う集い」には、ホテル一畑、NPOスペースなどと共催、県立短大音楽研究室、(社福) 敬仁会など18企業、団体の協賛を得て開催しました。

協議体の組織図



- ・生活協同組合しまね
- ・島根大学 持続可能な地域社会構築のための地域政策に関する研究プロジェクト
- ・特定非営利活動法人フードバンクしまねあつたか元気便

<https://foodbankshimane.com>



他団体と協働することで発見したこと

単独ではできなかった課題に取り組むことができ、利用者の願いに応えることができつつあることです。さらには、フードバンクのフィールドを通じて団体相互の理解が促進されるなかで、「協働のプラットフォーム」、「ハブ」の場や機会となり、「協働」が「協働」を生む「協働の連鎖」の可能性を秘めていること。例示：古志原地区民児協と松江保健生協古志原地区の4つ支部との間で「高齢者の見守り連携」がおこなわれることとなりました。

組合員・地域住民の主体的な参加を促す工夫

様々な取り組みについて、フードバンクしまね主催の方式から、実行委員会方式に切り替え、他団体の関わりを「参加から参画へ」高めたいと考えています。この間も、古志原地区での「お昼ごはん+学習応援」が、地区社協との共催となりました。また、食品受け渡し会場は、地域団体と親和性が高い公民館に移し、地区民児協の参加の広がりに発展しつつあります。今後、受け渡し会場が増えることから、地域団体との実行委員会方式に切り替え、「連携」から「協働」へと発展したいと考えています。



活動において生協が担った具体的な役割

組合員募金の取り組みに加え、「OCR注文票」からできるフードドライブを呼びかけ、新たなスタイルで支える輪に組合員が参加することができました。さらには、組合員にパッキングボランティア参加を呼びかけました。広がりが課題ですが「3つの応援」に組合員が参加する基本的なスタイルを確立することができました。さらには、取引業者のみなさんに「卒業を祝う集い」の協賛をよびかけ、生協の他にも支える輪づくりがすすみました。

他地域・他団体や社会への情報発信

「広く浅く伝える」では、①あつたか元気便だよりの発行部数(24年度4千部)の拡大、ホームページ、facebook等の情報掲載の充実、②構成団体の機関紙での掲載の拡充(JA連合、購買生協、医療生協、労福協)、③テレビ、新聞社への働きかけの強化で報道につなげること、④行政広報紙での掲載の働きかけ。「深く伝える」では、地域団体や構成団体等での学習会や講演会等に積極的に取り組むこと、⑤パッキング等のボランティア参加者が、約1,800人に達しており、これらの方々をインフルエンサーとして位置づけて働きかけをおこないたいと思います。

フードバンク事業を軸とした「くらしと子育て応援」の協働のまちづくり 事務局の現地視察報告

CO・OP共済 地域ささえあい助成では、活動内容を深く知ることや事務局の学びの機会として、現地視察を実施しており、「生活協同組合しまね」、「島根大学 持続可能な地域社会構築のための地域政策に関する研究プロジェクト」、「特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便」が協働している活動を視察しました。

当日のプログラム

- ・ フードドライブのパッキング作業参加
- ・ 懇談

視察内容

小学生・中学生の子どもがいる家庭を対象としたフードドライブ活動のパッキング作業に参加しました。困窮しやすい長期休暇（春休み・夏休み・冬休み）におこなううちの、夏休みのプログラムで、宅急便配布と現地配布がある中で宅急便配布用のパッキングをおこないました。

事前準備には20人程度が参加しており、配布する食料が入った箱を運び、箱を開けて配りやすいように準備したり、配布する食料のセッティングをしたりしました。



事前準備が終わり、配布する食料の箱詰めめの段階になると参加人数は60人以上になっていました。箱詰めめは、12のグループに分かれておこない、それぞれのグループに配布先の家族構成、アレルギー等による除外品が書かれた紙がおかれており、参照して箱詰めしました。箱詰めめの最後には、ボランティアから配布先への直筆メッセージと、島根大学監修のアンケート等を入れました。



- ・生活協同組合しまね
- ・島根大学 持続可能な地域社会構築のための地域政策に関する研究プロジェクト
- ・特定非営利活動法人フードバンクしまねあつたか元気便

<https://foodbankshimane.com>



◎ フードドライブのパッキングに参加しての気づきポイント

1. 企業または企業労組より複数名、中には1企業から5人以上参加しており、企業の福祉への積極的な参加が垣間見えました。
2. 参加者が不安にならないように、グループ分けや指示号令がしっかりしており、非常に効率的な仕組みになっていました。
3. 箱を開けたときに子どもが喜ぶように一番上にお菓子を入れていました。
4. できあがり箱は箱いっぱいの量で、満足感を与える内容でした。
5. アレルギーおよび不用品の明記があり、複数人で確認することで、事故を防ぐシステムになっていました。
6. 配布先の家族構成に合わせたメッセージを書き、箱に詰めました。これには配布先に対する思いやりと、ボランティア側の参加に対する満足感が満ち溢れていました。



その後の懇談では、その他の活動内容や島根大学からのアンケート結果報告および島根大学の活動についてお話を伺いました。

協働たかめる助成として重要視している「一步踏み出した新しい取り組み」の部分では、フードドライブでお届けする箱の中にアンケートを入れて実態調査をされていました。今、何が心配で、どんな応援が欲しいのか、集めた声を島根大学の法律や福祉、教育などの様々な専門家と一緒に分析され、新しい取り組みにつなげていました。これは、地域課題の実態に寄り添った新しい取り組みを続けていくために大切なことです。

また、地域住民の主体的な活動参加の部分では、フードドライブのパッキングボランティアに、地元企業の社員や親子、学生など、年齢も性別も、参加のきっかけもさまざまな方が参加されていました。作業の前後には、活動の紹介があり、今から自分達がおこなうことがどんな意味があるのか理解してから活動でき、満足度が高い内容になっているため、次のボランティア参加へつながっていると感じました。

公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生

活動の具体的な内容

REHUL事業として、コープこうべを中心に行政や多くのNPOなどが協働し、居住支援活動に取り組む事業をしている。今年度はリーフル事業の利用希望があった場合、尼崎市とコープこうべに加え、今後事務局を担う予定である“ひと房の葡萄”の職員が内覧に立ち会ったうえで、事業の説明、利用に関する約束事の確認をおこない、利用に結び付けている。結果、8室の支援につながり、尼崎市ダイバーシティ推進課から2軒、生活保護課から3軒、外務省（難民）から1軒、難民支援団体から1軒、ウィメンズネット・こうべからDV案件1軒という内訳になっている。うち半数の4世帯が外国人世帯であることが特徴的である。また、各市営住宅自治会との関係性が良好で好評を得ており、リーフル事業が介入していない市営住宅の自治会長から、尼崎市住宅管理課へリーフル活用の要望をいただくという嬉しいオーダーもいただいている。協働団体間で月に一度、定例会議を開催し、情報交換・相互理解を深めている。このことがネットワークの維持や関係性の強化につながっている。

「RE」・・・REgional vitalization (地域活性化)

対象団体の自治会活動への参加による住宅内コミュニティの活性化や、買い物支援サービス等による周辺地域を含む地域活性化

・・・REstart (生活の新たなスタート)

この事業を活用される方々のこれからの人生の再出発点

「H」・・・Housing support (居住支援)

ひとり親世帯やDV被害者の方、外国人留学生の方等への居住場所の提供

「U」・・・Utilization of vacant houses (空家の利活用)

本事業の土台。使用されていない空家（空き室）の利活用

「L」・・・Life support (生活支援)

対象団体による事業利用者の生活支援や自治会活動への参加、地域への買い物支援サービス等それぞれの頭文字をとって、REHULとしました。

協議体の組織図



- ・生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
- ・認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
- ・一般社団法人officeひと房の葡萄

<https://www.youtube.com/watch?v=rW-pH9Q7oT0>



<https://www.youtube.com/watch?v=2T1EWvp-0Qw>



他団体と協働することで発見したこと

- ① 生活保護課からの相談が後を絶たない状態になっている。3~4%といわれる制度の谷間にある生きづらさを抱えた方の多さがうかがえる。
- ② ひと房の葡萄の活動から、闇バイトが我々の暮らしのすぐそばにあることを知った。行き場のない若者が狙われている。
- ③ 難民が激増している。
- ④ リーフネットワークグループの活動分野は様々であるが、どの団体の利用者にも共通しているのが貧困。貧困と生きづらさは密接に関わっており、貧困が個人や社会に与える影響の大きさを知った。

組合員・地域住民の主体的な参加を促す工夫

- ① 近年は園芸ブームに伴って市民農園が増えつつある。市営住宅内にも家庭菜園に適したスペースがあることから、自治会と連携し、リーフル利用者が中心となって家庭菜園を始めたい。栽培された野菜を収穫して、住民とともに食事会の開催を計画している。
- ② 尼崎医療生協とコラボし、リーフル事業を活用した「まちのほけんしつ」を開催予定。尼崎市は県内でも健康診断の受診率が低く3割程度である。改善のきっかけにしていきたい。

活動において生協が担った具体的な役割

- ① リーフ事業における問い合わせ受付窓口対応全般
- ② 新規加入団体の選定
- ③ 内覧希望者の同行案内
- ④ 尼崎市住宅管理課と支援団体との調整や、視察依頼があった場合のコーディネート
- ⑤ 新しい入居者と自治会長をはじめ自治会活動の円滑な活動に向けた伴走
- ⑥ ひとり親や年金暮らしの高齢女性、難民といった困窮する世帯への食品ロス商品の提供
- ⑦ DV被害者に向けた住居関連品を地域から寄贈いただく窓口
- ⑧ 行政制度では対応できない方の活動団体へのつなぎ役
- ⑨ 難民の就労支援

他地域・他団体や社会への情報発信

- ① 11月にSUUMOジャーナルの記事でリーフル事業を取り上げていただいた。この影響からか視察や取材が増加している。また、マンション学会から研究会の事例として取り上げていただいたことから、研究会の大学の先生を通じて認知がすすんだ。取り組みの紹介や視察対応などを丁寧に接していくことで、リーフル事業の認知度が上がっていくことを経験した。
- ② 自立援助ホームや児童養護施設、母子支援センターなどに継続的にコンタクトを取り、情報交流を継続する。
- ③ みんなのあま咲き放送局への継続出演する。

公営住宅を活用した居住支援とコミュニティ再生 事務局の現地視察報告

CO・OP共済 地域ささえあい助成では、活動内容を深く知ることや事務局の学びの機会として、現地視察を実施しており、「生活協同組合コープこうべ 第1地区本部」、「認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」、「一般社団法人officeひと房の葡萄」が協働している活動を視察しました。

当日のプログラム

- ・ 尼崎市役所での懇談
- ・ 協同購入センター尼崎でのフードバンク見学
- ・ 市営住宅見学
- ・ 一般社団法人officeひと房の葡萄との懇談
- ・ ビッグイシュー基金(参画団体)との懇談
- ・ 認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべとの懇談

視察内容

◎ 尼崎市役所での懇談

REHUL(リーフル)事業の概要について説明いただきました。REHUL事業は、コープこうべを中心に行政や多くのNPOなどが協働し、居住支援活動に取り組む事業です。

事業のスキームとしては、尼崎市とコープこうべが包括連携協定を締結し、「部屋を借りたい要配慮者の自立支援をしている団体が、コープこうべが<筆頭>となるネットワークグループに加入する」ことで団体が部屋を借りられるというものです。尼崎市からの団体貸し出し家賃は1戸あたり6,500円、使用許可条件は、①自治会活動参加②共益費の負担③現状渡しにつき改修工事は自前、保証金や原状回復は不要④使用許可期間は1年間(契約更新可能)⑤退去要請に応じることです。

活動を始めたきっかけは、募集停止で入居者が増えないと、自治会活動衰退や役員なり手不足、交流がなくなる、住人の共益費負担増加等の問題があり、空き家の増加が課題となっていたため、「コープこうべとのREHUL事業」をおこなうことになったとのことです。この事業をおこなうことで、①共益費が上がることを抑制する現行の入居者支援、②要配慮者への自立支援、③地域コミュニティの活性化、④市が空き家から家賃収入を得られるなどの効果があります。

◎ 協同購入センター尼崎でのフードバンク見学

冷蔵品のフードバンクを実施していたため、見学しました。冷蔵品の配布は、要冷蔵品センターで廃棄ロスとなる食品をREHUL利用者以外にも児童養護施設やネグレクト支援施設などに配布をしています。



- ・生活協同組合コープこうべ 第1地区本部
- ・認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ
- ・一般社団法人officeひと房の葡萄

<https://www.youtube.com/watch?v=rW-pH9Q7oT0>



<https://www.youtube.com/watch?v=2T1EWvp-0Qw>



◎ 市営住宅見学

REHUL事業として改装し、貸し出す予定の部屋を2か所訪問しました。修繕によって貸し出すことができるきれいな状態になっていました。家賃は支援団体により違いがありますが、6,500円から30,000円に設定されています。



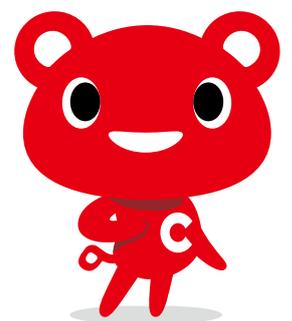
◎ 各団体との懇談

一般社団法人officeひと房の葡萄（以下、ひと房の葡萄）には、早稲田大学の学生が修士論文で作成したひと房の葡萄の活動映像を観させていただきました。この映像は、ひと房の葡萄が日々おこなっている子どもの居場所づくりの活動記録をまとめたもので、訪問する子ども一人ひとりにあった支援を時間と手間をかけておこなう様子が収められていました。REHUL事業とのかかわりとしては、若年女性向け自立支援型シェアハウスを開設するなど、計12戸を借りているとのことでした。



ビッグイシュー基金は、ホームレス・路上生活者の支援をおこなっており、そのような方にビッグイシュー（雑誌）を販売してもらい、自立支援をしています。また、REHUL事業から8戸を借り、自立支援に活用いただいています。

認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ（以下、ウィメンズ）には、住宅取得が困難なシングルマザー、若年女性、外国人留学生や学生が、「ここにしか住めない」ではなく、「ここに住みたい」と思ってもらえる住居、「六甲ウィメンズハウス」を見学させていただきました。ウィメンズは、DV被害や社会的要因などで困難な状況にある女性と子どもの支援に長年取り組んでいる助成団体です。部屋の家具が家具販売業者プロデュースで設置されているなど、さまざまな工夫がされており、「厳しい環境に置かれている人が『ここに住みたい』と思えて、尊厳のある暮らしをしてほしい」という思いが実現できるまさに「ここに住みたい」と思えるような住居でした。REHUL事業からは、9戸を借り、DV被害女性や低所得のシングルマザー世帯の支援をしています。



地域ささえあい助成事務局からのお知らせ

「地域ささえあい助成」ホームページのご紹介

CO・OP共済オフィシャルホームページ内に地域ささえあい助成のページを開設しています。このページでは、地域ささえあい助成の概要のご紹介のほか、本誌やこれまでの助成実績を掲載しています。また、2026年度助成の募集情報や応募書類も順次掲載していきます。



◎ <https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



「CO・OP共済 社会貢献の取り組み 登録制ページ」のご紹介（※助成金活用団体のみ閲覧可能）

助成に関するご案内や各種セミナーのご紹介など、様々な情報を発信しています。



◎ <https://kouken.coopkyosai.coop/>

「地域ささえあい助成」のロゴとバナーのご紹介

助成金活用団体の皆様には活動時に地域ささえあい助成のロゴやバナーを活用いただいています。



「地域ささえあい助成」の2025年度のスケジュールのご案内

| | |
|--------------|-----------------------|
| 4月～5月 | 2025年度助成金のご入金 |
| 8月頃 | 2026年度募集情報公開 |
| 9月～12月 | フレンドリーサポート |
| 10月24日（金） | 団体交流会 |
| 10月中旬から11月中旬 | 2026年度助成の応募受付 |
| 3月下旬 | 2026年度助成の審査結果通知 |
| 3月末日 | 2025年度助成の活動報告・収支報告の締切 |



活動報告

協働はじめる助成

助成件数 8件

助成金総額 3,030,051円

協定産地と連携した 若者就労支援プログラム

- ・生活協同組合パルシステム東京
- ・ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
- ・一般社団法人くらしサポート・ウィズ

活動のきっかけ

2023年に当組合にて困窮者支援に関する政策を制定し、「働く」という視点の活動を強化することになりました。現在、当組合の事業所にて困難を抱える若者の就業体験を受け入れていますが、業種が配送や福祉に限られています。もっと生協の特色を活かした体験を提供できないか検討していた中、連携協定をしている千葉県旭市の産地から、地域活性化や関係強化をともにすすめようとの話になり就農体験を共催することになりました。



活動内容概要

当組合と連携する若者支援団体の事務局より紹介された若者を中心に、産地がおこなう青果生産を通じた就農体験を提供しました。今年度の就農体験プログラムとしては、受け入れ規模1回12人を上限とした日帰りプログラムを2回、少人数を対象とした本格的な農作業をおこなう一泊二日のプログラムを1回開催しました。体験内容については仕事としたので、収穫体験ではなく、運搬・洗浄・出荷や、農業用マルチや柵の撤去などを設定しました。



他団体と協働することで発見したこと

収穫体験ではない本来の仕事に同行することによって、農業に従事する大変さ（体力的な負担、天候リスクへの対応、理不尽なクレーム対応など）を実感することができました。あらためて、組合員に対して生産者に要求するだけでなく、リスクを受け入れるのが生協における利用のあり方であることを伝えたいと思いました。困難を抱える若者への接し方は、あまり意識しないことが双方の居心地の良さにつながることを確認しました。

活動において生協が担った具体的な役割

プログラム全体の事務局として体験希望者の受付や産地との日程、プログラム内容等の調整をおこないました。全体プログラムの工程管理や収支管理、産地や若者支援団体との打合せに関する事務局も担っています。ほかに当日プログラムの手伝いや、今後の取り組み拡大を見据え、旭市の担当者との関係づくりをすすめました。旭市と就農を希望もしくは検討している都内在住者に向けた連携プログラムを共同で検討することになりました。

成果として評価できる点

一番の成果は就農体験プログラムを確立することができたことです。日帰り・一泊二日それぞれの体験において適切な作業量と効果的な生産者との意見交換等の運営方法についてノウハウを獲得できました。参加した若者および付き添い者からは、「就農のイメージをえることができ、生産者への感謝の気持ちを高める貴重な経験になった」との感想が寄せられ、当初の目的を果たすことができたと考えています。また、旭市との関係構築も成果となります。運営実績をもとに意見交換することで、次年度以降の連携プログラム実施に向けて検討していくことや、市からの具体的な就農希望者への支援内容について確認することができました。

将来イメージ

2024年度において、体験プログラムづくりや旭市との関係構築について一定の成果があったので、2025年度は体験から就農希望につなげるまでの道筋を整備したいと思います。なお、就農希望者については、体験に参加する若者の範囲だけでは見つけることが難しいので、広く組合員一般まで広げたいと思います。最終的に生協にとっては社会貢献活動の拡大、産地にとっては働き手の確保、支援団体にとっては受け入れ先の拡大、旭市にとっては住民増、組合員にとっては支援活動への参加や第二の人生に向けた選択肢の拡大など、それぞれがWin-Winの関係となるよう計画的にすすめていきたいと思っています。

県内の居場所紹介とメンタルヘルス講座

- ・ 一般社団法人富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会
- ・ とやま生活協同組合

<https://www.wakamono-yorisoi.net/>



活動のきっかけ

富山県内の自殺者数は高止まりしている他、不登校や引きこもりの数は増加しており、孤立や孤独の解消が課題となっています。つながり等が希薄化した結果、対人関係で悩み、不調を訴える若者が増えている印象があります。2019年、県内における若者支援（ひきこもり・就労・精神保健等）の各団体が集まり、個々がおこなっている若者支援をより広範に、またつなぎ合うことで取りこぼしのない支援を実施するため活動を開始しました。



活動内容概要

若者やその親、生協組合員、福祉関係者等を対象に県内の各居場所を紹介する他、県外講師を招き、メンタルヘルス講座を実施することで、孤立や孤独、生きづらさの解消をはかることを目指します。実施にあたり、若者にボランティアとして参画してもらいます。イベントは、生協や本協議会の各ネットワークを活用し、周知をはかります。実施にあたり、アンケートを実施し、評価やふり返しをおこない、次年度の活動に活かします。



他団体と協働することで発見したこと

イベントには準備段階から多くの団体が参画しました。当日もスライドを使いながら主催者団体の紹介や、県内の各居場所紹介の時間を設けたことで、私たちも協働団体の活動内容を知ることができました。一つのイベントを通じて連携・協働したことでつながりや顔の見える関係が生まれ、今後の支援にきっと生かされると感じています。

活動において生協が担った具体的な役割

開催前の準備として、チラシの作成と印刷手配、生協組合員を対象にチラシの配布やホームページでの開催案内など参加者の募集をしました。開催当日は、受付業務のほか主催団体の紹介として、スライドを使用して生協の活動紹介や協議会と生協のつながり等について紹介をおこないました。

成果として評価できる点

アンケートをみると玄田先生の講演も各居場所紹介も大変よかったという好意的な意見がほとんどでした。「玄田先生のお話に久しぶりに笑って楽しかった」「現代社会を生き抜くヒントや心構えを生かしていきたい」「ユーモアたっぷりのお話で、心が楽になり、自分は自分なんだと思いました」「県内にはいろいろな活動をしている団体がたくさんあることがわかりました」「県内の様々な活動が拝見できて興味深かった」などの声が寄せられました。大きなトラブルもなく、無事、イベントを終えることができました。

将来イメージ

「この寄りそいネットワークの活動はとても理想的だと思います」「どうか、細く（それぞれの専門カテゴリーをカバーし）長く続けてくださることを祈ります」という声もいただきました。今回の活動は当協議会にとっても初めての大きなイベントでした。たくさんの方にご参加をいただき、無事終わられたことは自信にもつながりました。今回の活動をきっかけに今後もさまざまな団体と協働し、若者の生きづらさに寄りそう活動をおこなっていきたいと思います。また、生協の皆様と協働してイベントを実施できたらと思います。

誰もが集える居場所作り 富山型共生・共助コミュニティ ありみね

- ・ 特定非営利活動法人ありみね
- ・ とやま生活協同組合

活動のきっかけ

富山県民ボランティア総合支援センター主催の助成金相談会に参加した際、「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を知り、その活動理念や対象活動が当団体と共通していた。活動の中でも特に「食の支援」と「食を通じた交流」において協働できるのではと考え、具体的な活動計画を検討した。



活動内容概要

様々な社会課題（生き辛さ・食・健康・不登校含む教育・ひきこもり・貧困・地域の過疎化・防災など）に直面している当事者やその家族、活動の理念に共感する人々が集い、つながり、助け合える「居場所」を創設する。年間を通してイベントや相談業務、お話会や勉強会などの活動を通して、近隣の方々だけでなく県内外、様々なバックグラウンド・年齢層の方々に訪れて利用していただくだけでなく、居場所創りの一員となって運営にも参加していただく。



他団体と協働することで発見したこと

それぞれの団体に取り組んでいる活動の背景、社会課題に対する新たな学びや視点を得ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

イベントにおいて、食材の提供をしていただきました。また、生協が提供している、地域や生活に密着した様々なサービスに関する資料をご用意いただきました。とくに過疎化した地域の高齢者にとっては、生活サービスなどに関する情報を得る機会が限られている為、紙媒体の資料は今後も役立つと思う。

成果として評価できる点

当初は、主に子ども食堂や学習支援を主体とした、年に数回のイベントを計画していた。しかし、活動をしていく中で、期間限定・参加者を募るような形のイベントより、少人数でも継続的に、様々な用途とタイミングで集まれるような形式が、本来の活動理念に沿うように感じ、活動内容を変更することとなった。結果、本当に様々な年齢層、バックグラウンド、県内外の方々に利用いただき、「枠」を超えた出会いや経験などにつながる場となった。長年ひきこもり状態だった方が活動を知り、運営のお手伝いから社会参加をされるようになったり、高齢者の方々が喜びで涙を流されていたり、地域の方々が応援や協力をしてくださるようになり、活動の意義を実感した。

将来イメージ

今後は、この1年の活動内容を元に更に充実させ、その為に居場所を利用する方々や地域の方々にも運営に携っていただき、「共に」居場所を創っていく。一つの社会課題に特化するのではなく（多くの社会問題は往々にして全てどこかでつながっている為）包括的に支援・情報交換・共助できる仕組みを構築し、地域活動や他の団体との協働を通して、つながりや社会参加のきっかけとなる場を目指す。今後はSNSや折り込みチラシなどによる広報や、既存のネットワーク（行政や教育・福祉機関など）への活動紹介などを通して活動の場を広げていく。

商品寄贈による 社会福祉貢献活動

- ・わかやま市民生活協同組合
- ・社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会

活動のきっかけ

和歌山県社協さんとは、災害ボランティアセンターの活動（ボランティアの派遣・災害物資倉庫の提供など）、市町村社協さんとは、高齢者への買い物支援など協働したとりくみでつながりがありました。和歌山県内すべての市町村で活動している社会福祉法人の社協さんと協働できないか相談したのがきっかけです。



活動内容概要

2024年4月25日「和歌山県における地域福祉活動の推進に係る連携・協力に関する協定書」を締結しました。宅配事業の出荷基準外商品の情報を2カ月に一回和歌山県社協さんに提供、市町村社協と調整後、商品を寄贈しています。寄贈した商品は、のべ6回の寄贈で7,554点、金額として3,103,108円となりました。社協さんでは、和歌山県内の“社会福祉協議会”のネットワークを活かし、生活に困窮を抱えた方の支援や、子ども食堂、社会福祉法人施設等にお届けすることにより、地域福祉の推進に役立てています。



他団体と協働することで発見したこと

県社協さんとは、ミーティングと2カ月に1回の商品寄贈の場を通じて、お互いの組織をより深く知ることができました。また、社協さんが関わる「災害ボランティア研修会」「ボランティアフォーラム」「子ども食堂ネットワークの会議」などの案内をいただき参加しました。市町村社協さんとは、「フードドライブ」「地域共生社会づくり団体のまつり」などを通して協力関係がすすみました。また、生協がすすめる「地域コミュニティ支援補助金」は、社協さんのネットワークを通じて案内してもらうことで関係が深まりました。

活動において生協が担った具体的な役割

寄贈できる商品を期日までに提示し、県社協さんが調整した日程に合わせて、わかやま市民生協の宅配支所まで寄贈商品を届けました。寄贈日当日、立ち会いをおこない商品を引き渡しました。

成果として評価できる点

事前の打ち合わせを綿密におこなったこともあり、スムーズに活動をすすめることができました。また、お届けした商品がどのように活用されているのかは、県社協さんからフォトレターをいただいたことで、子ども食堂・老人くらぶ・社会福祉法人施設や生活困窮者への個別訪問に活用していただいていることがわかり、そのことを生協の組織内で共有できました。生協と社協さんは、共に地域共生社会づくりのために貢献するという方針を持っています。2025年度は、子育て支援のとりくみにも、共にとりくんでいきたいと考えています。

将来イメージ

和歌山県は、全国より少子高齢化がすすみ、コミュニティも維持できない地域が生まれています。また、「南海トラフ地震」が発生した場合には、多くの被害が予想されます。生協と社会福祉協議会は、地域共生社会づくりへの寄与を方針にかかげ、日常の活動をおこなっています。今回の活動をきっかけにお互いのことを更に知り、協働できる活動を積極的に推進する中、将来的には「包括的な協定」にまでつなげ、和歌山県住人（組合員）のくらしに貢献したいと考えています。

六甲ウィメンズハウスに おけるコミュニティカフェ およびフードパントリー活動

- ・公益財団法人神戸学生青年センター
- ・生活協同組合コープこうべ 第3地区本部

<https://rwh.jp/>
六甲ウィメンズハウスの紹介です。



活動のきっかけ

神戸学生青年センターは、外国人留学生への支援活動として、奨学生支給事業と日本語ボランティア学習支援事業を実施しています。2021年に六甲ウィメンズハウス事業を開始し、2024年6月から入居者の受け入れを開始しました。コープこうべや共同事業先であるウィメンズネット・こうべと協力し、困難を抱える女性や子どもが地域とつながるための支援として、コミュニティカフェを利用することに注目しています。



活動内容概要

六甲ウィメンズハウス内のコミュニティカフェを拠点に、2024年6月より月1回のフードパントリーを通じて母子の居住者へ食料支援をおこなっています。また、地域住民やコープこうべの組合員・職員と居住者が「食」を通じて交流するおーがにつく食堂を9月と11月に開催しました。地域とのつながりを深めるため、不定期でニュースレターを発行し、オープン時には内覧会を実施して六甲ウィメンズハウスへの理解促進をはかりました。



他団体と協働することで発見したこと

本事業は神戸学生青年センターとウィメンズネット・こうべの共同事業であり、コープこうべの無償提供による建物を活用し、困難を抱える女性に住まいを提供しています。その他、人・まち・住まい研究所、鶴甲地区連合自治会、COFFEE KIOSK A4、六甲おーがにつく市、ジェイ農園、かさねて、コープこうべなど多くの地域団体の協力により、女性が安心して生活し、自立に向けて行動できる環境が整いました。

活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべの地域連携推進室、第3地区本部、コープ鶴甲関係者は、月1回の六甲ウィメンズハウス地域ネットワーク部会に参加し、相互の関係を深めています。居住者への食料支援として、フードパントリーやフードドライブを活用し、積極的に食料提供を実施しています。また、就職活動支援として、コープこうべを職場とした就労支援もおこない、居住者の自立を後押ししています。

成果として評価できる点

当該建物の居住者は困難を抱える女性や子どもたちであり、他者との関わりに配慮が必要な場合があります。そこで、本活動では建物内のコミュニティカフェを活用し、食を通じた居住者同士やコープこうべの組合員・職員との交流を促進しました。さらに、フードパントリーや保育ボランティアには地域の方々も参加し、居住者が地域で孤立しないようつながりを築いています。コープ鶴甲の関わりにより、地域の多様性が広がり、コミュニティの活性化にも貢献しました。コープこうべや自治会と共に、当該建物のキャッチコピーである「女性や子どもが「ここにしか住めない」ではなく「ここに住みたい」と思える住まいをつくらう」という目標に近づいています。

将来イメージ

将来、六甲ウィメンズハウスを中心とした活動および協働のイメージとして、コミュニティカフェが居住者と地域住民やコープこうべ関係者などとの「地域のつながりの場」としての機能を果たすようになることを望んでおります。具体的には、六甲ウィメンズハウスが地域の中に根ざす存在として、定期的に対象を限定せず食事を提供する「コミュニティカフェ」として運営可能となり、地域住民が訪れたり、居住者や地域住民が共に食事をしたり、他愛ない会話ができるような交流をおこなえる場になっていくことをイメージしております。

誰でも利用できる ブックカフェと予約の いらない子ども食堂の運営

- だーこキッチン
- 生活協同組合コープみえ

<https://daco-kitchen.studio.site/>



活動のきっかけ

伊賀市には世代を通して寄り合える場所がないという課題があります。子ども達はコロナ禍で図書館の席数が減るなど放課後、親の迎えを待つ場所がありません。また、高齢者は家から一歩も出ず、誰とも話さないことがあるという地域の課題があり、気軽に行ける交流の場を作ることが必要だと気づきました。さらに、小中学生には給食だけを食べて来る子や食糧不安を抱える子が多くいると知り、子ども食堂や誰でも来れるようブックカフェという名目で居場所作りを始めました。



活動内容概要

水曜以外の平日13時から17時まで、子ども食堂&ブックカフェをオープンしています。子ども食堂は、誰がいつきても飲食物を提供できるようにしているほか、中学校と協力して生活困窮家庭へ食糧支援をおこなっています。ブックカフェは、コープみえの茶楽という居場所づくりのイベントやもみほぐしカフェ、書道カフェ、空き家相談会など様々なイベントを開催し、交流の場となっています。その他、月に数回、地域の飲食店の協力のもと、無償で弁当配布をしています。



他団体と協働することで発見したこと

コープみえからの食材提供で、子ども食堂にくる子どもたちに配ることができ、伊賀市社協からのお米の寄付や情報を得たりなど新しいことにチャレンジできる環境が生まれました。また、コープみえや伊賀市社協の広報に取り上げていただいたことで知名度が上がりました。その後、支援をしたいと地域の企業から連絡がきたり、注目を浴びることで支援につながったり、金銭や物品以外でのつながりが非常に大きな財産になったと実感しました。

活動において生協が担った具体的な役割

伊賀市社協よりだーこキッチンの活動を紹介いただき、コープみえとしてできることから協力することで取り組みがスタートしました。「支援物資の提供（組合員からの良品返品等）」「コープみえ広報部を通じてFMみえへの情報配信とその番組内での放送」「配達時のチラシ配布」「コープみえ機関紙での組合員への情報提供」「伊賀エリア会（組合員活動）がだーこキッチンの施設を使っての居場所づくりの取り組み」等を取り組み、組合員間での知名度が上がりました。

成果として評価できる点

当初から子ども達が多く来るわけではありませんでしたが、毎日開けていることで「ここは何のお店？」と通りすがりの方が関心を持ってくれるようになりました。近隣の小学校や中学校でチラシを配布し、周知をすすめることで、徐々に子ども達が訪れるようになりました。さらに、SNSで活動の様子を発信することで多くの方の目に触れ「何か手伝えないか」と無償でお弁当を提供して下さるお店も増え、支援の輪が広がっていることを実感しました。成果として評価できる点は、継続することで地域に認知されるようになったこと、コープみえや伊賀市社協に加え西部自治協や中学校、企業、個人飲食店とも関係を築き支援の輪が広がり大きな力となったことです。

将来イメージ

居場所づくりとして、高齢者やママ世代を含む様々な方が集まれるよう、多彩なイベントを開催していきたいと考えています。子ども食堂としては、本当に支援を必要とする子ども達を支えるため、中学校と連携し、フードドライブの拠点として困窮家庭への食材配布を重点的に取り組みます。地域の協力を得ながら、無償の弁当提供も継続する予定です。また、中学校の先生を通じて生活困窮家庭の実情を知る中で、子どもたちが自立できる環境を整えるためには、食糧支援と並行して学習支援をすすめることが不可欠であり、特に緊急性が高いと感じています。教育支援に重点を置きながら地域と連携し引き続き食糧支援もおこなう拠点として存続していきます。

出前のびすく (地域における乳幼児 親子の居場所づくり)

- ・ 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク
- ・ みやぎ生活協同組合

<https://www.sefami-kosodate.jp/>

<https://nobisuku-sendai.jp/>

<https://www.miyagi.coop/>



活動のきっかけ

子育て支援施設に行きたくても、子どもを連れて一人で遠くまで行く自信がない。子育て支援施設には行く必要性を感じない。そんなママたちも買い物には行く。いつも買い物に行く場所（生活圏）に、ちょっとした子どもの遊ぶおもちゃや絵本があり、知らない人だけど話しやすい人がある。ママたちが、地域で知り合いをつくるきっかけになるような、居場所をつくる。

活動内容概要

運営している子育て支援施設は、近隣在住や車がある人は気軽に遊びに来ることができるが、公共交通機関での移動が大きな障害となり、行きたくともなかなか遊びに行くことができない親子がいる。そのため、住んでいる地域の身近な店舗であるみやぎ生協に居場所を作り、気軽に利用してもらうようにしている。また、親子の交流をはじめ、地域で活動する支援者・団体と連携することで、親子がつながる機会となり、孤立した子育てを防ぐことができる。



他団体と協働することで発見したこと

地域を拠点に育児グループの支援をおこなっている団体と協働することで、地域に密着した情報を提供できたこと、参加者も店舗の近隣に住む親子が回を重ねるごとに多くなった。団体の活動を直接参加者に周知することで、支援している育児グループにつながるケースもあり、win winの関係を作ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

- ① 広報（店内でチラシ配布とポスター掲示。生協ホームページに掲載）。
- ② 会場となる店舗の担当理事との調整、会場の予約。

成果として評価できる点

荒井店では、毎回生協の時間を設け、職員による生協の商品等のPRをおこなったことで、よりお店を身近に感じることができたようで、お店からも子ども連れの利用につながったとの声を聞くことができた。南光台店の参加者からは、地域に子どもが行ける場所ができたことや普段使っている店舗で開催していることへの満足度も高く、リピーターが多かった。荒井と南光台の地域は、当法人が運営する子育て支援施設からは遠く、「行きたいけれど行けない」との声が多く寄せられていたため、その声に応えることができ、また、地域の子育て支援者となつぐこともできた。

将来イメージ

生協の集会所の存在を知らない方も多かったが、買い物をするだけのところから、地域とつながる場所になっていく。生協の時間では、商品等のPRのみだったが、商品を使った離乳食講座や料理講座等もおこなえるようにしたり、スタッフが参加者となつがり、買い物に来た際、知り合いのスタッフがいる店として、より親しみを感じたり、地域に知り合いがいることで、その地域がより身近に感じられるようになっていく。コロナ禍以降減少しているみやぎ生協の親子ひろばの再開のきっかけになればと考えている。当法人のできるサポートはしていきたい。

みんなの笑顔をつくる 地域の居場所づくり

- ・ 東都生活協同組合
- ・ 一般社団法人チョイふる

<https://www.instagram.com/flat.toto/>
https://x.com/toto_ibasyo
https://note.com/easy_beetle6951



活動のきっかけ

東都生協さんの2030年ビジョンにもとづく居場所づくりのプロジェクトにお声がけをいただき、協働することとなった。



活動内容概要

地域に開かれた、多世代の居場所運営全般。自然と多世代交流が生まれるようなイベントの企画。困っている人と（今は）困っていない人が垣根なく、フラットにすこせる居場所の仕組みづくり。



他団体と協働することで発見したこと

運営していくうちに悩みや困難さが出てきて実情を共有（弱さの自己開示）したところ、補い合えるそれぞれの団体の強みを知ることができた。いい意味で遠慮がなくなり、コミュニケーションも円滑になった。また、自団体の強みも再確認した。

活動において生協が担った具体的な役割

周知・広報の面で東都生協さんのネットワーク（配達便・メルマガ・広報紙・議案書）等を活用させていただいたこと。イベントでの人員協力、グッズの提供、試食イベント車によるイベント開催等。

成果として評価できる点

乳児から高齢者まで、また障害のある方、事情により学校へ行けていない方等、社会的つながりの少ない方へのアウトリーチと利用の継続が実現できたこと。一緒にごはんを食べるだけでなく配膳、片付け、あそびを組み込むことによりコミュニケーションやつながりが生まれたこと。

将来イメージ

より多くの地域住民と地域共生社会（多世代の助け合いの地域づくり）が実現できるよう、ふらっと・とーとの運営の仕組みを整えていく。それによりふらっと・とーとがネットワークの中心となった地域コミュニティの（助け合いの）モデルを構築できる。



当日のプログラム

- ふらっと・とーとでのイベント見学
→東都生協の素材を使ったベビーカステラをデコレーションして食べる
- 懇談

視察内容

東都生協足立センター内にある一般社団法人チョイふるの活動施設である「ふらっと・とーと」を訪問しました。この施設は足立センターの会議室を改装してつくられています。視察日は「東都生協の米粉を使用したベビーカステラをデコレーションして食べるイベント」を開催しており、地域住民の方々が参加されていました。壁に「ふらっと・とーと」で「やりたいこと」や「私こんなことができます」というメッセージカードが数多く書かれていたことが印象的でした。



その他、活動概要にあるように、自然と多世代交流が生まれるようなイベントを協働団体間で協力して数多く開催しています。今後もさまざまなイベントを通して地域共生社会の実現を目指し、ふらっと・とーとの施設がネットワークの中心となった地域コミュニティのモデル構築に向けて活動を続けられるとのことでした。





活動報告

協働ひろめる助成

助成先件数 21件

助成金総額 16,321,560円

人と人がゆるくつながれる コミュニティカフェ 「At Link café」の運営

- ・ 特定非営利活動法人アットリンク奈良
- ・ 市民生活協同組合ならコープ

<https://www.atlinknara.org>



活動のきっかけ

性暴力サバイバーは、様々な後遺症や生きづらさを抱えていることが多く、人間関係を構築することや社会生活を営むことが困難になっている人が少なくない。性暴力サバイバーに限らず、トラウマや精神疾患などを抱える方は孤立することが多々あり、少人数で安心安全が守られる空間でつながれる場を提供したく、居場所事業の活動を開始する運びとなった。ただそこに居るだけで良い、ほっとする場を作りたい思いで始まった。



活動内容概要

月に一度講師を招き講座を開催している。リーズナブルな参加費で受講できる場としてきた。心身の健康がテーマ。直接心身に有効的なものや、それを助ける知識となり得るもの、またリラクセスや日々の健康維持に役立つものを提供している。モノづくりは静寂をもたらし、座学では知識を得ることができ、毎回笑顔が溢れるあたたかい空間となった。難易度が高そうなアートに挑戦し達成感を味わうこともあるなど、バラエティに富んだ取り組みとなった。



他団体と協働することで発見したこと

コープさんとの協働によって、多数の希望者にオンライン配信を提供できた。当法人だけでは設備的、人力的に困難な面が多くあったため、協働することで叶えていけるという可能性の発見があった。また、コープさんの会報誌に講演会を掲載いただいたことで、幅広い層の方々に当法人の活動を周知する良い機会に恵まれた。当法人の活動は、年齢も性別も関係なく、一人でも多くの方に周知すべきことだと再認識できた。

活動において生協が担った具体的な役割

大きなホールを借りての講演会を共催いただき、オンライン配信の具体的な準備や打ち合わせ、当日の設定などを担当していただいた。機器の準備も細かく調査してくださり、当日無事に配信を終えることができた。とても責任感の強い方々で、連携もしっかりしつつ、安心してお任せでき、他のすべきことに集中することができた。また、夏の演奏会ではコープさんのホールを貸していただき、当日の準備なども担当いただいた。

成果として評価できる点

実際に性暴力サバイバーの方々や、生きづらさを抱えている方に参加してもらえる場となったことが成果であった。参加が叶わない時であっても、「次回楽しみにしています」と声をいただくことも多く、「毎月行く場所がある」と心の拠り所となれた。毎回参加しなくても行けば笑顔で迎えてくれる、そんな心の居場所となれたことが3年継続したことの大きな成果である。当法人で開催している性暴力被害者当事者の集まり（自助会）に参加している方も、居場所事業のアットリンクカフェを、自身の心身の状態に合わせてうまく活用してもらえたことも評価できる。選択肢が多数あることで、生きづらさを抱える人の心身の状態にも柔軟に対応できたと自負している。

将来イメージ

生きづらさやトラウマを抱える人たちが参加してくださることで、生きづらさの原因やそれを緩和するための知識、情報が乏しいことが浮き彫りになった。居場所事業では人間関係の構築や安心安全の場の提供ができ、参加者の方々の具体的な悩みや問題に触れることも多くなり、知識や情報を提供していくことの大切さを実感した。今後はその部分を重点的に補っていく計画を立てている。トラウマの影響による生きづらさやその改善方法、また治療が必要な方にはその情報提供などを具体的にこなっていく。この居場所事業の3年間の中で培ってきた関係性を、今後はさらに深い部分へつなげていけることは継続してきた結果であり、非常に有意義であったと感じる。

地域の子ども達を元気にする 「ふきのとう・こどもクラブ (第三の居場所)」活動を広める

- ・生活協同組合コープさっぽろ
- ・公益財団法人ふきのとう文庫

<https://fukinotou-bunko.com/>



活動のきっかけ

子どもたちが孤立しやすい放課後の時間を中心に、家庭や学校以外の場で、信頼できる大人や友達と安心して過ごし、将来の自立に向けて生き抜く力を育む場所づくりを、子ども図書館を活用しながら学び・遊びながら過ごすことを目的としている。



活動内容概要

毎週日曜日は14:00~16:00、月・火・水曜日は14:00~18:00を活動時間として、工作、異文化交流、もぐっこタイム・カフェタイム、季節ごとのイベント等、工夫を凝らしながら活動している。子どもたちは、遊ぶ、お話をする、本を読む、勉強をするなど、好きな時間に来て、好きな時間に帰る、という方法をとっている。今年のはじめて、特別企画としていただいた助成金で「バスツアー」による農業体験を企画することができた。



他団体と協働することで発見したこと

日頃子どもたちが、小学校などでは行ったことがない場所に、異学年のお友達と出かけていくことによって、普段とは違った交流や関わりができたように感じた。特に農業体験では、スーパーでしか見たことのない野菜を自ら収穫する驚きや喜びを見出したように感じた。親子での参加は、特に楽しみも倍増したように感じた。

活動において生協が担った具体的な役割

運営していくうえで、スタッフの配置や役割の位置づけ等を、組合員活動を参考とするようなアドバイスをおこなった。

成果として評価できる点

子ども図書館運営事業に加えて、「第三の居場所」事業を始めたことによって、図書館に来た親子が、本に親しむだけでなく、遊びの広がりや新しい発見をすることができた。また、学年を超えて中学生から小学1年生までの幅で参加者が増え、年の違う子ども間での交流がすすんでいる。地域の方々に、お話しすることによって、地域の新しいこどもクラブとしてのPR効果もあった。講師スタッフと子どもたちとの関係は、「先生と子ども」の師弟関係ではなく、近くにいるおじちゃん・おばちゃん・おねえさんとしての関係を持続できている(呼称は「ひらがな名」で皆が共有している)。

将来イメージ

将来的に、ますます共働きの保護者が増加することが見込まれ、学校から帰宅後の子どもたちの居場所に関しては、大人として憂慮すべき点が多いと感じている。学校へ行けなくともおいで、学校が終わってからもおもしろく遊べるからおいで、宿題がある子もおいで、多様に受け入れることのできるこどもクラブは、少しでも保護者が安心して働くことができる地域社会を形成する一端を担う役割を果たすことができると思う。近年未成年者の非行が多い中で、中学生の居場所も大切なワードであると感じている。「中学生カフェ」的なことにもチャレンジできないかと検討をしていきたい。

あのね～食と居場所で つながる地域の子どもたちの セーフティネット

- ・ 一般社団法人あのね
- ・ 生活協同組合おおさかパルコープ

<https://www.facebook.com/takadono.kodomo.anone/>



活動のきっかけ

地域のなかで生活困窮や虐待などでしんどい思いを抱えた子どもがいるかもしれない…との想いで、2016年に「高殿こども食堂あのね」を始め、ひとり親家庭等の子どもたちの居場所活動「あのねくらぶ」も2018年に開始。母子家庭の子どもと多く出会い、関係性が深まるなかで、おおさかパルコープ子ども食堂フードバンクを活用して食材などを無料で渡しており、コロナ禍を経て「あるのん」として拡充してきました。



活動内容概要

【高殿こども食堂 あのね】地域の子どもや保護者が気軽に集える、食事と遊びの場

【あのねくらぶ】登録制の子どもの居場所活動。ひとり親家庭やヤングケアラーの子どもたちの食事会、学習支援、遠足などの活動

【あるのん】母子家庭の支援。地域の母子家庭50世帯以上が登録。①食品配布：常温・冷蔵・冷凍の食品や文具等を無料配布。②個別支援：育児や生活の相談、生活保護の申請、弁護士相談等の同行支援も実施。



他団体と協働することで発見したこと

フードロス防止の考えが社会に広まってきて、フードバンクが入手できる食品が増えつつあることと、食糧を必要としている生活困窮の母子世帯が地域のなかで非常に多くあることが、お互いの活動からみえてきました。その2つをつなぎ、食材を受け渡すことで、フードロスと困窮者支援の成果を両立できたと考えています。

活動において生協が担った具体的な役割

フードバンクで集荷した食材や、オムツや洗剤等の日用品を、あのねの拠点まで搬入して無償で提供しています。あのねは、子どもはすべて無料で利用できる活動のため、継続した活動のためには食品の寄付が不可欠であり、毎月安定して食品を供給する要の存在となっています。また、保冷箱や保冷剤の貸出や、あのねが生協で食材を大量購入する時の注文受付と搬入をおこなうこと、寄付された家具の運搬をおこなうなど、柔軟に活動を助けています。

成果として評価できる点

おおさかパルコープのフードバンク事業との連携によって、あのねでは、毎月たくさんの食材を配布できるようになっていきました。釣りイベントで廃棄される魚や、大阪市の災害備蓄品をはじめ、各種企業・団体からの大量提供にも対応しており、食品ロスを減らす観点からも一定の成果を果たすことができました。また、冷凍食品など家庭で喜ばれる食品も多く、自分で食事を準備しなければいけない子どもたちにも、役立つ事業となりました。

また、他のフードバンクは遠方まで受け取りにいかねばなりません。また、おおさかパルコープの場合はあのねの団体拠点まで無償で運搬したところに大きな価値が生まれたと考えています。

将来イメージ

地元の子どもたちに「あのね」が浸透し、学校や家庭の困りごとを相談できる場所として活用されていることをイメージしています。具体的には、子どもの居場所活動の開催日が増えたり、学習支援にも力をいれた活動をできればと考えています。また、シングルマザー支援として安定した食料提供や個別支援を継続して実施していきます。さらに、他機関との連携が深まり、困難な状況下にある地域の子どもをキャッチして、スピーディーかつ適切なサポートを実行できるように成長していきたいと思います。今年度は、区役所の子育て支援課やスクールソーシャルワーカーからの子ども・母親の紹介も増加したため、一層の協働を目指していきます。

視覚障がい者と健常者が 共に行動できる地域づくり

- ・生活協同組合おおさかパルcoop
- ・社会福祉法人日本ライトハウス

https://www.palcoop.or.jp/blog/chiiki_katsudou/2025/01/pal229-guide-help.html



活動のきっかけ

視覚障がい者と健常者が共に生協の活動や様々な取り組みに参加したい、して欲しいという思いから、ガイドヘルプ(手引き)の学習・講習会を開催し、本人合意の上でボランティアとして登録をするボランティア登録制度を設け、ガイドヘルプの依頼があればコーディネートをする仕組みを設けています。まずは、白杖を持った人を見かけたら状況に応じて「何かお手伝いしましょうか」の声かけができる人を地域に広げることです。



活動内容概要

ライトハウスに講師を依頼し、実際にアイマスクを付けて、走行、階段の昇降やエレベーター・エスカレーターなどの体験をしました。今回は助成金で電車の乗り降りや座席への誘導、最終回には実体験のため、視覚障がい者の参加も呼びかけ、大阪城公園までの歩行・帰途は電車での体験、キップの買い方、改札口の出入り、買い物体験など多くを組み合わせました。



他団体と協働することで発見したこと

講師のライトハウスとは長年のお付き合いですが、本当に丁寧に視覚障がい者の立場に立って教えていただき、細かな所まで講習することができました。視覚障がい者と健常者をつなぐ存在の重要性を改めて認識しました。

活動において生協が担った具体的な役割

ガイドヘルプの学習・講習会を開催し、一人でも多くの組合員に参加を呼びかけています。しかし、まだまだ、ボランティアの人数は少ない状態です。ボランティアの利用も生協の活動のみにしているため、ガイドヘルプの依頼も少ないですが、障がい者にとっては活動への参加のチャンスです。活動に参加された障がい者はボランティアと共に参加することで、周りの人たちがさり気なくフォローしてくれているのを感じているようです。

成果として評価できる点

ガイドヘルプの学習・講習会は若い人の参加も多く、全員がボランティアとして登録してくれました。障がい者の実態を知り、ガイドヘルプの基本を学んだ人を地域に増やすことができ、障がい者の日々の行動が広がり、お互いが理解し高まりの輪を広げることができました。今後は受講者に取得したことを実体験していただくことが大切だと思っています。

将来イメージ

現在は組合員を対象にした活動ですが、いずれは地域全体に意識を広げることで、多くの人が白杖を持った人を見かけた際に、「何かお手伝いしましょうか」の声かけができるように活動をしていきたいと思っています。

環境問題や防減災も考えて！ 福島と福岡の絆の「かぼちゃ」を 育てるプロジェクト

- ・ エフコープ生活協同組合
- ・ 東峰村えんプロジェクトの会

https://www.fcoop.or.jp/union_activities/activities_report/report/archives/979



活動のきっかけ

当生協では、東日本大震災の直後から、特に福島県内の生協やJAとともに協同組合間協同による災害復興応援活動に取り組んでおりました。その後発生した「平成29年7月九州北部豪雨」災害では、逆に同県内から東峰村に駆けつけていただき、協同して支援物資・義援金の提供や仮設住宅での食事会などに取り組みました。その一環として開催した被災者同士の交流企画で本活動の案が生まれ、2021年度から継続しています。



活動内容概要

東日本大震災により、被害を受けた福島県飯館村において開発された「いいたて雪っ娘かぼちゃ」を、「平成29年7月九州北部豪雨」災害で甚大な被害を受けた東峰村で栽培（今年は環境に配慮したマルチを活用）。台風・猛暑の影響でかぼちゃの収穫はできませんでしたが、東峰村の被災状況を見学する親子バスツアーを企画、福島県飯館村の生産者との交流ではかぼちゃを活用した地域振興や管理方法について学ぶことができました。



他団体と協働することで発見したこと

活動を通じて、高齢化による遊休農地の問題や人口減少の状況を身をもって知ることができました。かぼちゃの定植会やバスツアーは抽選になるほどの応募があり、県内に防減災に興味・関心のある親子や地元大学生が意外にも多いことに驚きました。昨年の圃場が災害のため使用ができなかったため、今年は圃場を変えましたが、台風や猛暑の影響で不作となり、自然相手の企画の難しさを痛感しました。

活動において生協が担った具体的な役割

飯館村側（いいたて雪っ娘プロジェクト協議会）と東峰村えんプロジェクトの会や地元NPOなどをつなぐ企画・事務・運営を中心にしておこないました。定植会は、組合員などに参加を呼びかけるとともに、活動の準備・当日運営を担いました。バスツアーは地元NPOに広報を依頼し、若い世代にも防減災の意識を高めてもらうために、包括連携協定を結ぶ地元大学の学生にも当日運営ボランティア兼参加者として声掛けをおこないました。

成果として評価できる点

福島県のいいたて雪っ娘プロジェクト協議会をはじめ、東峰村えんプロジェクトの会などのご縁を絶やすことなく活動ができました。とりくみの継続によって、定植企画はリピーター参加者も複数おり、県内各エリアから東峰村へ足を運んでもらう機会づくりができました。近年、地震や豪雨といった自然災害が増加していることもあり、定植やバスツアー企画に対する反響が大きかったことも収穫でした。参加者からは「災害の恐ろしさを学んだ」「今度は家族皆で行きたい」等の声が寄せられました。あいにくかぼちゃの収穫はできませんでしたが、定植の参加者から心配の声が寄せられるなど、少しでもご縁を広げることができたのかなと思います。

将来イメージ

年数を重ねるごとに交流の輪が広がってきているので、引き続き福島と福岡両地域の交流が復興の励みにつながればと思います。災害から年数が経つとどうしても意識が薄くなってしまいますが、活動を続けることで一人でも多くの方が災害を自分ごととして捉え、防減災の意識を高めていきたいと考えます。また、現地に足を運んで終わりではなく、今後は誰にでもできるとりくみとして、コープ商品を活用した自宅でのローリングストックの推進や防災食を実際につけて食べてみるなどのとりくみを新たなチャレンジとして大学や地域団体と連携し、「備え」を実行できる企画も盛り込んでいけたらと考えています。

『支え愛の店ながえ』を拠点とした、 生協と米子市永江地区自治連合会 協力による地域支え合い活動

- ・ 鳥取県生活協同組合
- ・ 米子市永江地区自治連合会

活動のきっかけ

支え愛の店ながえ内に鳥取県生協のミニココステーションを2019年8月に開設し、地域住民と交流をおこなう中でスーパーの撤退による買い物困難や地域の高齢化がすすんでいることをお聞きし、課題解決に向け永江地区自治連合会との協働を始めた。その後、2022年4月に自治連合会と地域支援活動に関する協定を締結し、ささえあい助成を活用した活動を開始した。



活動内容概要

「支え愛の店ながえ」を住民同士のささえあい拠点とし、夕食宅配（弁当配達）や、店舗での生協商品の販売を継続しおこなっている。また、介護事業にあたらぬ簡単な生活のお手伝いとして、「くらし助け合いの会（有償ボランティア）」の活動を住民主体・地域限定で開始し、住民同士のおたがいさまの心を地域に広げる取り組みを継続しておこなっている。2024年度は“サロン”も定期的を開催し、住民同士のコミュニケーションを深める手助けをすすめた。



他団体と協働することで発見したこと

さまざまな団体がつながり合いそれぞれの団体の特徴を活かし協働することが重要であること、そして、地域の方々がそれぞれのくらしにあった利用となるように理解と参加を広げることが住民主体の持続可能な取り組みにつながると考えます。昨年度から取り組んでいる“サロン”では、医療生協やワーカーズコープ等他団体との関係づくりができ、関係を深めることができました。

活動において生協が担った具体的な役割

- ① 夕食宅配：「支え愛の店ながえ」まで弁当を届けること、弁当配達に関連する事務作業などの支援をおこなっている。
- ② くらし助け合いの会：地域コーディネーター（地域住民）の活動がスムーズにすすむよう、問題解決と広報活動等と一緒にこなしている。
- ③ 商品利用：「支え愛の店ながえ」で販売する生協商品の仕入れに関する支援をおこなった。
- ④ サロン活動：サロンを定期的で開催し、住民同士の交流をすすめた。生協としてサロンの企画内容の支援をおこなった。

成果として評価できる点

自治連合会の皆さんも毎月活動内容や今後の活動予定を紹介したチラシを作成し全戸配布している。また、地域コーディネーターを中心に地域の困りごとなどを聞き取り、助け合いの活動をすすめている。生協の夕食宅配、店舗での生協商品の販売等を通して生協の存在が地域に少しずつ浸透してきていると感じている。

将来イメージ

「支え愛の店ながえ」を拠点とした“食（夕食宅配と販売）”、“くらしの助け合い（有償ボランティア活動）”、“サロン（住民のコミュニケーションづくり）”の活動がより充実していくよう、生協だけでなく行政や社協ほか様々な団体に関わり、住民主体の地域づくりとして充実していくことを目指す。また、活動から得られる収益を蓄積することで自立した活動になることを目指す。

らいむショップを通じた 地域コミュニティの再形成

- ・生活協同組合コープみえ
- ・社会福祉法人桑名市社会福祉協議会

活動のきっかけ

当施設がある地域は現在高齢者だけの世帯が増え、地域住民同士のつながりが希薄化、孤立する住民が増加している。らいむショップは、そういった背景を踏まえ、誰もが利用しやすい、人と人とのつながりが増し、安心して過ごせる地域の拠点を目指して、2022年4月にオープンした。知名度を上げ、利用者を増やしていくことで、地域コミュニティを再形成する場としての存在感を増していくことを目的に活動を始めた。



活動内容概要

年間を通じた季節のイベントを開催することで、地域住民に「らいむショップ」の魅力を知ってもらう機会を増やした。開催したイベントは、バランスボール体験、ミニ縁日、夏・冬のコーヒーキャンペーン、十五夜（お月見どろぼう）、ハロウィン、クリスマス、バレンタインで、「映える」バルーンアートで店を飾り、来店者にはプレゼントやくじ引き等で、楽しんでいただく工夫をした。



他団体と協働することで発見したこと

ミニ縁日を障がい児の保護者による夏祭りと共に開催したことで、初めて当施設を訪れた方も多く子育て世代等との交流が増した。引きこもりの方がボランティアとして活動に参加し、祭り全体を盛り上げてくれた。この他にも地域自治会は、ショップの金券をラジオ体操の景品にするなど、非常に協力的であった。協働を通じて、多様なニーズを知ることもでき、地域コミュニティ形成の重要性、可能性を実感した。

活動において生協が担った具体的な役割

バランスボール体験やミニ縁日では、開催前の宣伝とボランティアの募集をしていただいたおかげで、タイトなスケジュールにもかかわらず、多くの方に参加いただくことができた。どのイベントでも、参加者が楽しめる空間づくりやイベントがスムーズに進行できるように一緒に考えてくださり、心強い支援をしていただいた。

成果として評価できる点

年間を通じたイベントの開催で地域の皆様が、らいむの丘（らいむショップ）へ訪れるきっかけをつくることができた。単発イベントでのボランティア活動をきっかけに、就労準備期間中の方が、少しずつ交流のステップアップをされ、今では商品の陳列をボランティアとして、定期的に活動してくれるようになった。また、その人数も少しずつ増えてきている。来店者だけではなく、様々な方の新しい居場所としての役割を担うようになり、地域住民の認知度も上がってきたと感じている。また、コープ商品の取り寄せ注文に来店される方も増え、らいむショップの収益も昨年度より拡大している。

将来イメージ

多世代共生施設らいむの丘は、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関係なく、様々な人たちが集う場という理念のもとにできた施設である。今後もこの特性を生かし、地域のニーズを広く把握し、幅広い世代や背景の人々が集う場となるような環境づくりをしていきたいと思っている。

耕作放棄地など地域資源を活用した 市民農園や体験農園を通して農業の 担い手育成や消費者が農業を学ぶ活動

- ・わかやま市民生活協同組合
- ・紀ノ川農業協同組合

<https://www.wakayama.coop/magazine/assets/81f1ca8214e7d4a6da838a5c750dda7160f686b9.pdf>



活動のきっかけ

紀ノ川農協さんとは、創立以来産直活動を通して交流を深めてきました。また、援農ボランティア「紀ノ川農縁隊」に組合員・役職員が登録、「古座川ゆず平井の里」のゆず収穫ボランティアに参加するなど、学習と農家との交流をすすめてきました。紀ノ川農協さんより、今後5～10年の内に急激に農業従事者が減少し地域の共同が崩れることの発信があり、地域の共同を「市民農園」等を通じて農業関係人口を増やしたいとの呼びかけからはじまりました。



活動内容概要

今年度は、市民農園を検討するにあたり、どれだけ農業に関心のある人がいるかを知るために体験農園（とうもろこし・ブロッコリー）を実施しました。紀ノ川農協さんは、耕作放棄地の再生、作付け圃場整備、栽培体験の企画と実施、近畿の各生協への企画案内を担いました。わかやま市民生協は、消費者が農業生産を体験することにより、農業への理解を深める活動と位置付け、紀ノ川農縁隊（援農ボランティア）を募集し、「種蒔き・定植・収穫」の農作業に参加しました。収穫体験に大阪の生協組合員が約800名参加しました。



他団体と協働することで発見したこと

農業に関心をもっている組合員が予想より多かったこと（紀ノ川農縁隊への登録、目標130人実績231人）。その動機は、「子どもに作物づくりや食料の大切さを教えたい」「プロの人から野菜の育て方を学びたい」など組合員の関心事をつかめました。天候や苗の生育の関係で、作業日が何回も中止・延期になりました。また、とうもろこしは、23,000本の定植で収穫は8,000本となり、農業の厳しさを実感しました。

活動において生協が担った具体的な役割

紀ノ川農縁隊（援農ボランティア）を募集しました。とうもろこし・ブロッコリー活動では、組合員・役職員のべ98家族・231人が登録、農作業にのべ450人がかかりました。また、体験農園内の古民家を借り、トイレ等を改修し、農作業にいられた組合員の休憩所、宅配の商品受取場所として活用をすすめました。また、この農園でできたブロッコリーは、店舗で1,257個販売しました。

成果として評価できる点

CO・OP共済 地域ささえあい助成を活用させてもらったこともあり、1年目の協働の活動を多くの組合員・役職員の参加ですすめることができました。紀ノ川農協さんの組合員・役職員も参加し、参加者の労働力と交流が力になったと言われています。和歌山県は、1年間に1,000件の基幹的農業従事者（2万7千人/2020年）が離農し、新規就労100件です。10年この状況が続けば、水田や農地は荒れ、高齢化の進行とともに地域のコミュニティは崩壊の危機となっています。生協として、組合員の関心ごとの実現、持続可能な地域社会のために貢献できるとりくみの一歩を踏み出せたと考えています。

将来イメージ

わかやま市民生協は、紀の川市と包括連携協定を結びました。紀ノ川農協さんもこの地域にある専門農協です。また、紀ノ川農協さんも参画する別会社「紀の川流域カンパニー株式会社」は、行政の協力のもと設立した、建築業や自動車販売修理業など異業種が連携し、遊休農地や空家、人材育成を課題とするまちづくり会社です。市民農園のとりくみも2025年下期からはじまる予定となっており、少しでも農業従事者が増え、耕作放棄地減少につながればと考えています。様々な団体が協力・共同し、地域の諸課題にとりくむ中、地域のコミュニティ維持に貢献することは、生協の発展にもつながると考えています。また、この地域の協働のとりくみが先駆けとなり、県内全域・全国へひろがることを期待しています。

つながりインターンシップ@ 協同～若者が協同の働き方を 学び、どう生きるかを考える～

- ・一般社団法人くらしサポート・ウィズ
- ・パルシステム生活協同組合連合会
- ・社会的連帯経済推進フォーラム

<https://kurashidial.or.jp/youth/>



活動のきっかけ

若者に協同組合の理念や仕組みを学んでもらうことを目的として、2014年度にインターンシッププログラムを創設しました。きっかけは、主要事業である相談事業や学界との交流を通じて、若者が抱える生きづらさや就職への不安感などを知ったことでした。協同組合を知ることで人生の選択肢を広げてほしいと考え、趣旨に賛同した協同組合などを受入団体とし、大学教員などの研究者とも連携しながら活動を開始しました。

活動内容概要

学生が、地域の協同組織で働く人々と共に働く体験やインタビューなどを通して、主体的に「協同」や「社会・地域・人とのつながり」を学ぶプログラムです。2024年度は首都圏の7大学から25名の学生が参加しました。学生は2～6名のチームに分かれ、生協、農協、労協、協同組織金融、非営利組織などの受入団体で平均約4.7日の実習に参加しました。これに加え、事前学習会や修了報告会などのイベントも4日間実施しました。



他団体と協働することで発見したこと

受入団体職員からは、「学生と交流することで自らの組織や働きがいなどを改めて考える機会になった」といった声が毎年聞かれます。当インターンシップは、協同組合などの職員教育にも効果があるということがわかってきました。また、社会的連帯経済推進フォーラムが11月に開催した研究会に参加しました。過去の修了生を含む大学生や参加者との議論を通して、「協同」という言葉の意味合いをより明確に伝える必要性を学びました。

活動において生協が担った具体的な役割

例年、複数の生協が学生の実習受入、全体イベントや振り返り会議へ参加しています。受入団体の中でも特に生協は、学生に対し、協同組合は組合員の共通のニーズにもとづき時代や地域によって多様な事業展開をしてきた運動体であること伝える役割を担っていると考えています。また、各生協は参加学生の希望やスケジュールなどに応じて、柔軟に実習内容などを調整してくれたので、事務局としても大変助かりました。

成果として評価できる点

未来を担う人材である学生たちが協同の理念や人と人とのつながりを大切にする働き方を学びとってくれたことが最も大きな成果です。「協同の雰囲気」とも言うべき環境で実習を体験した学生からは、「働くことにポジティブなイメージを持た、積極性が身についた、協同組合に就職した」などの声が毎年聞かれます。また、この間の取り組みが注目され、当プログラムを参考にして、他エリアや他業種でインターンシップの試行を見通せる状況になったことも成果と言えます。なお、助成金を活用して取り組んだロゴ制作では、修了生や研究者を交え話し合ったことで、当インターンシップの特徴や信念がより明確になりました。

将来イメージ

この取り組みは、誰もが安心してらせる地域社会を担う人を増やすことにつながると考えています。このビジョンに向けて、学生自身の意見も取り入れて改善を加えながら、今後も継続して参ります。現在は首都圏の大学生を中心的な対象として実施していますが、他の地域や他の年齢層（協同組合で働く若手職員、一般企業退職者など）にも同様のプログラムを適用することで、「協同」の学びを多角的に広げ、協同組合の価値を高めることにつながると考えています。そのため、当インターンシップの運営ノウハウなどをパッケージ化し、他団体が実施する場合にアドバイザーになるなどの展開も検討しています。

コープのびのび・ぴよぴよ クラブ

- ・ 広島中央保健生活協同組合
- ・ 一般社団法人ふくしま文庫

<http://www.hch.coop/>



活動のきっかけ

当生協の事業所内で出た要望に応え、第二団体とともに、子育て世代が気軽に集まれ、気軽に相談できる場所を地域に作りたい、という思いから、活動への賛同者を募り、コープのびのびクラブを発足した。その後は、活動を広める為に、当生協の活動理念に共感してもらえ、当事業への協力者を探し、活動を広める為に協働で活動をおこなっている。



活動内容概要

主に広島市西区の地域に暮らす子育て中の家族、および当生協の小児科などの利用者が集まり、子育てや健康についての情報交換をしたり、利用者同士がつながりを持ったりできる場をつくる。広場開放時におこなうミニ講座、ボランティア参加を通して、地域の活動家、団体とのつながりを作る。また、広島中央保健生協から看護師・保健師・保育士・歯科衛生士などが参加し、子育てや健康についてアドバイスをおこなう。



他団体と協働することで発見したこと

主にコープのびのびクラブのミニ講座に参加していただくなどの形で協働をおこなっている。参加される中で、お母さん方とコミュニケーションを取られて、ふくしま文庫を知って来館者が増えたり、地域で読み語りをされている学生さんを紹介していただいたりして地域活動の輪が広がった。

それぞれの活動の中で出会う人が違うので、協働の取組をしていくなかでさらに新しい出会いを広げ、活動への参加者を増やしていけることがわかった。

活動において生協が担った具体的な役割

コープのびのびクラブ・ぴよぴよクラブ運営の事務局として、実際に子育て広場の運営・広報・見守りを担当している。また、この活動を通し、当生協の組合員の世代と子育て世代とのつながりを作ること（地域で子育て支援をされている組合員への参加要請）などを通し、子育て世代と地域の方との関わりを増やすために尽力している。また、地域の方々ボランティアを通した社会参画を後押しする役目も果たしている。

成果として評価できる点

今年度は269組586名が子育て広場（のびのび・ぴよぴよ）に参加された。7月の第20回子育て応援企画には28組96名、3月の第21回子育て応援企画には、13組55名の親子が参加した。その中には生協未加入の方が10組おられ、広島中央保健生協を知っていただく良い機会となった。子育て広場では、事業所の専門職職員を講師に迎える学習会への参加から、事業所利用の増加にもつながった。また、子育て広場に来ていただいたマジックが得意な方が、組合員活動のイベントに招待されたり、組合員サークルの公演の場となるなど、子育て広場の活動を通して生協の輪が広がった。

将来イメージ

将来は、当生協の他の事業所（佐伯区の事業所）などにも、子育て広場を展開していきたい。また、現在はお子さんの見守りは主に職員が担っているが、地域や他生協、学生生協（近隣の大学等）ボランティアを広く募り、地域の人々が、その地域の子育て世代と知り合い、あたたかく見守っていただける場所にしていきたい。また、当生協の小児科の利用委員の選出や、子育て広場の利用委員を選出し、利用するお母さん方とともに作り上げていく「子育て広場」「小児科」にしていきたい。地域の子育て世代の方々が一人で悩んでしまうことのないよう、安心できる居場所を提供できるような場所を目指して活動を続けていきたい。



活動のきっかけ

「しんしんオンライン健康体操」は、2022年にコープ第5地区本部と始め、年間累計2,000名以上の参加者を集める成果を上げている。この取り組みをきっかけに、高齢化がすすみ、買い支えの活動をしているコープミニ月が丘店と周辺の地域団体が連携し、体操やスポーツを通じた多世代交流をおこなうことで孤立感を減少させ、健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指した地域主導の健康づくりをすすめられたらと取り組むことになった。



活動内容概要

第1火曜にウォーキング、第2木曜と第3火曜に健康体操、2ヶ月に1度奇数月に体力測定を実施し、継続したプログラムで運動の習慣化を促している。また、コープ周辺で活動している地域団体や施設とも連携し、運動指導者やイベントサポーターの養成を目指しながら、地域住民で継続して運営できるよう基盤づくりのサポートをおこなっている。さらに、地域の取り組みにスポーツ体験を取り入れ、多世代交流の機会を作っている。

他団体と協働することで発見したこと

月が丘地域は自治会やふれあいまちづくり協議会の活動が盛んで、運動会や夏祭りなどの大きなイベントをはじめ、定期的開催されるお茶菓子を楽しめるサロンや、小学生の放課後の居場所づくりなど、すでに地域主体で積極的に取りまわっていた。改めて地域によってさまざまな活動があることを知るとともに、その中で活動していくには、他団体の理解と連携が大変重要であり、細かな関わりの積み重ねの大切さを強く感じた。

成果として評価できる点

上半期は、コープミニ月が丘店舗内に新しくできたスペースを地域で有効活用できるよう、看板製作や使用ルールなどの検討会議が続き、ささえあい助成の取り組みをすぐにすすめることはできなかったが、その間地域ミーティングや各取り組みにできるだけ関わり住民の方々と友好な関係を作り、信用を得ていくことを大切に結果、下半期には予定していたプログラムが実現し、孤立を悩んでいた体操参加者が地域食堂のサポーターになるなど嬉しい効果があった。また、3月の地域イベントでは多世代にスポーツを楽しんでいただき好評を得られ、今後の地域での取り組みを一緒に欲しいとさまざまな地域団体から連携のお話をいただけた。

活動において生協が担った具体的な役割

スペースとして店舗内のつどい場を提供した。広報面では、健康プログラムについて各実施時間などがわかりやすいよう、店舗内に垂れ幕を設置した。ウォーキングプログラムでは、毎回熱中症対策として参加者にペットボトルのお茶をプレゼントした。健康プログラム参加者には50円の金券を配布し、買い支えの取り組みにつなげた。体操時に参加者が安全に動かせる机や椅子を準備した。

将来イメージ

健康プログラムは、地域住民主体で継続できるよう地域指導者やサポーター養成がすすんでいる。現在発足に向けて動いている地域陸上クラブは、小学生だけでなく部活動の地域移行が問題となっている中学生も受け入れができていく。ふれまちや自治会など各地域団体と連携し、地域イベントに身体づくりの要素を取り入れることで、多世代交流を促す仕組みが確立している。この体操やスポーツを通じた健康習慣をテーマにした地域づくりの事例は、コープの店舗と地域ごとの実情に合わせて、さまざまな形で地域づくりに貢献でき、第5地区本部ですすめる「健康」「子育て応援」「居場所づくり」「多世代交流」「多様性の推進」などの地域課題解決につながっている。

「川で繋がる温泉街」 地域交流促進事業

- ・ 一般社団法人あまみら
- ・ 生活協同組合コープおおいた

<https://www.facebook.com/amamira0707>



活動のきっかけ

令和2年7月豪雨の支援のために活動を実施している中で、食の支援の際に、生活協同組合コープおおいたさんが協力してくれたことがきっかけとなった。継続した支援をしていく中で、定期便などで天ヶ瀬温泉街の現状を知っており、イベント実施や食の部分で多大な力をもらえるため、協働するに至った。



活動内容概要

「川で繋がる」をテーマに、コープさんとの協働はもちろん、地域住民や地域団体との協働にも重きをおいて取り組んだ。6月には川の生物採集とゴミ拾いをおこない、ゴミ拾いの景品は地域住民で作成した「アクリルたわし」を配布。川をきれいにしてもらうことと、地域住民の集まる場を作った。絵葉書コンクールでは、天ヶ瀬温泉街や川にまつわるテーマで作品を募集し、100点以上の作品が集まり、展示をおこなった。



他団体と協働することで発見したこと

「復興の輪を広げていく」という目的もあり、多くの団体と協働した。イベント開催時は地域内でおこなわれている「吊り橋マルシェ」と同日開催することで、参加者も多く、地域住民も参加するきっかけがたくさんあり、大変喜ばれた。また、景品を地域住民と作成したので、その景品を通じて、地域外との人々と交流する機会も見られた。他団体と協力することで、現地に足を運ぶ人も増えたので、広く協働することの意義を知ることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

イベント周知活動とイベント当日の運営補助が主な役割であった。周知活動では、地域で宅配を利用している住民もおり、生協さんとの協働という面で安心感を抱き、積極的に参加してくれる住民さんも多くいた。イベント当日では、ゴミ拾いの受付、絵葉書コンクール展示会場の案内、表彰式のプレゼンターなど、人手が少ない部分をカバーしていただき、円滑にイベントを開催することができた。

成果として評価できる点

「川で繋がる温泉街」というテーマのもと、多様な活動を展開し、各種団体と連携できた点が良い点でした。生物採集体験やゴミ拾い活動を通じて、参加者が自然と環境保全への関心を深める機会を提供しました。また、絵葉書コンクールでは川の魅力を表現し、地域への愛着を育むきっかけとなりました。餅つき大会の開催により、地域の伝統を継承しながら交流を促進した点も良かったと思います。さらに、地域住民や近隣の小中学校と連携し、多世代が関わることで、持続的な川の活用と環境保全への意識向上に貢献しました。これらの取り組みが川に対する関心を高め、温泉街の活性化にもつながると考えます。

将来イメージ

この取り組みを継続・発展させることで、川が地域のシンボルとなり、温泉街の魅力を高める場となることを目指します。生物採集体験やゴミ拾い活動を定期開催し、地域住民や観光客が川を守る意識を共有することで、天ヶ瀬温泉街の自然環境や景観を保全する輪が広がります。マルシェ内でのイベントとして継続できるように連携をすすめています。また、絵葉書コンクールや餅つき大会などのイベントを通じて、地域文化の継承と交流が深まり、子どもたちのふるさとへの誇りも育まれたと考えます。天ヶ瀬温泉旅館組合さんと連携して、継続した開催ができるように検討したいと思います。

SOSを受け止められる 社会へ、子ども支援者 育成事業

- ・ NPO法人子どもサポートステーション・たねとしずく
- ・ 生活協同組合コープこうべ 第2地区本部

<https://tanetosizuku.com>



活動のきっかけ

ひとり親家庭への食料提供での協力や、ひとり親家庭の抱える困難や支援の必要性を地域で共有するための地域連携共生会議を通して、これまで地域の課題を共有してきました。昨年度は子どもの居場所を開設し、ボランティアや寄付者を増やす活動をしましたが、子どもを取り巻く課題の解決には地域に様々な子どもの居場所が必要であり、地域の団体と連携し、子ども支援の知識をもった支援者を増やす必要性を感じました。



活動内容概要

「子ども支援者のための居場所づくり連続講座（全4回）」を実施しました。様々な地域で活躍する団体の話を聞き、安心して子ども支援を始めるのに必要な知識が得られる場にしました。また、地域の団体がつながる役目も果たしました。秋には、たねとしずくライブラリーを利用するひとり親家庭や不登校の子ども達を対象に体験活動を実施しました。子ども達が意見を出すなど主体的に関わる活動のロールモデルとなるよう取り組みました。



他団体と協働することで発見したこと

「子ども支援者のための居場所づくり連続講座」を通じてコープこうべと言う“社会的資源”が支援活動に貢献していることを発見しました。また、コープこうべにとってもひとり親家庭の抱えている問題を知り、障がいのある方々も含めたインクルーシブな社会にしていこうための活動を知り、組合員の気づきにつながりました。様々な背景をもつ参加者が話し合うことが、相互理解と地域全体で支えあうことにつながると実感しました。

活動において生協が担った具体的な役割

生協の役割として、地域を支える活動を連続講座の中で伝えることができました。特に「地域全体で力をあわせて支える」として、地域団体との取り組み事例を伝えながら参加者同士がつながりを強められる動機づけをはかりました。また、食材提供やコープこうべの組合員集会室、レンタルスペース等の場を提供、コープこうべの広報誌や店舗への掲示で広報をし、コープこうべとつながりのある地域団体と今回の取り組みをつなぎました。

成果として評価できる点

全4回の連続講座に3回以上参加された方が6名、延べ参加人数59名でした。参加された団体の中から3団体と来年度以降ひとり親家庭支援で連携できるよう協議を始めています。地域で居場所を運営している団体やこれから始める団体が、ひとり親家庭支援や子ども支援を安心して始めるために必要な知識や手法について、研修内容が整備されてきています。講座を重ねるごとに、協働団体との連携が深まり、新たにひとり親家庭へのクリスマスケーキプレゼントも協力して実施することができました。体験活動では、学校でもフリースクールでもない場所で、子どもたちの声をどのように聴き、役割をもって関わってもらうのかを実践する機会になりました。

将来イメージ

子ども支援に必要な知識や手法を学ぶことができる支援者育成研修を整備し、市内外で活動する団体が利用できる支援者研修を実施します。子ども食堂、パントリー、子どもの居場所などの立ち上げ支援をコープこうべや西宮市社協と連携しておこない、当団体の研修に参加した団体が地域で子どもたちを支える担い手となっていくことを目指します。本をテーマにした個人が参加しやすいイベントを開催し、子ども支援に関心のある個人の参加を増やしていきます。また、それらのイベントは子ども達の社会経験や地域参加の視点を持ち、地域の中で子どもたちが参加する機会を作ります。子ども達が計画から関わり、主体的に参画する社会づくりにつなげていきます。



活動のきっかけ

生活クラブ生協旭センター3階に、旧職員寮の遊休スペースがあり、活用が課題となっていた。居住支援事業を実施していたNPO法人さくらんぼから、旭センター3階を活用し、協働で居住支援活動が実施できないかとの打診から協議を経て、プロジェクトで検討をすすめ、23年4月にホームタウンみなみを開設、生活クラブ生協、NPO法人さくらんぼ、横浜みなみ生活クラブと共同企業体を組織し、ともに運営をおこなっている。



活動内容概要

NPO法人さくらんぼがシェアハウスを担い、食堂・フードパントリー・保育スペースを横浜みなみ生活クラブが担い、生活クラブ神奈川が物件の管理やメンテナンスをおこなっている。また、ホームタウンみなみ共同企業体会議と運営会議を開催し、全体方針の決定とそれぞれの事業や活動の進捗状況、共にすすめてくことなどの確認をおこなっている。まつりの開催では、保育園からの出展があり、その後、保育スペースでの連携も作れている。



他団体と協働することで発見したこと

三者で協働することで、それぞれの強みやネットワークを活かして情報交換やアドバイスを伝えあい、試行錯誤を繰り返しながらすすめることができている。共にすすめているので、具体的な話ができ、スムーズに連携できていることが強みだと実感している。地域にひろげていくことを目指していて、今年度は、地域の子育て関連団体や子ども食堂、フードパントリーをおこなっている団体と連携した活動ができたことを成果としてとらえている。

活動において生協が担った具体的な役割

本構想の運営全体に関する連絡調整窓口として、ホームタウンみなみ共同企業体の事務局を担っている。日々の活動における「おたがいさまのたすけあい」の思いを、組合員のボランティア参加や、フードパントリー・多世代食堂・保育スペースの運営に活かしている。組合員のネットワークや地域とのつながりから地域からの参加をつくり、地域や関係者への情報共有、情宣から、支援が必要な地域のかたへ情報発信をする。

成果として評価できる点

シェアハウスは今期新たに3名、開所からこれまでに8名の入居があった。ボランティアを含むスタッフが、日頃の何気ない会話やミーティングなどを通して関係性を築き、必要なサポートをおこなうことができている。また、ボランティア2名が活動している。多世代食堂は、自治会、社協、区役所に加え、地域への情宣もおこない、4月～3月まで月1回開催し、累計で570人の参加があった。フードパントリーは月2回開催し、4月～3月までで延べ649人に配布し、パントリー利用者から食堂への参加もあった。保育スペースは、前半は参加が少なかったが、開催回数や企画内容を見直し、累計で59人の参加があった。

将来イメージ

地域拠点して、人が出会い、集い、交差する場所、“ホームタウン”として、必要とする人がいつでも戻ってこれるような場所にしたいという当初の思いを持ち続けていく。シェアハウスの入居者がゆるやかに地域とつながり、また、入居者の多様なニーズに応えられる拠点としていくことや地域の方が自分たちの居場所として気軽に立ち寄り、シェアハウスや食堂・保育のボランティアに参加できるよう、食堂の複数開催、バリエーション化、学習支援やイベントの開催などをすすめていく。保育スペースは、子育てひろばの定期開催、子育て世代の居場所として、また、妊娠期からプレママを支える場所として地域に開いていきたいと考えている。

なんでも相談会・ フードパントリー

- ・北毛保健生活協同組合
- ・渋川北群馬民主商工会

<https://x.com/hokumouseikyou>



活動のきっかけ

コロナ禍後と続く物価高騰で貧困の格差が拡大したことに
対し、政府の対策だけでは助けられない貧困世帯への助け合い
事業の必要性を考え、実行委員会を発足してフードバンクを開
催してみた。



活動内容概要

第8回目を2024/7/28、第9回目を2024/12/22にフードパントリー
を開催した。



他団体と協働することで発見したこと

各々が生業としている分野にて協力してもらうことにより、担当
を分けて取り組むことができている。一方で、企業への協力依
頼については、早めにおこなう必要がある。企業によっては、社
会貢献として様々な活動をしているということを調べることが
できた。地域社保協との連携で地域の回覧板で告知することが
できた。

活動において生協が担った具体的な役割

フードパントリーの提供品を揃えた。広報をおこない、より多く
の人達にフードパントリーを告知することができた。

成果として評価できる点

第8回目(2024/7/28)の来場者は226人(808人分)、第9回目
(2024/12/22)の来場者は187人(555人分)。物価高騰のため、
提供品を予算通り揃えることが困難となる中、登録制として取
り組み、相談者と提供者を絞り丁寧に対応をおこなった。12月
開催時には、2件の相談に対応することができた。

将来イメージ

実行委員会構成団体と個人を増やし、この行動に参加する団
体と人を増やす。地域の要求に併せて子育て・医療・介護・就職
支援活動をおこない、場合によっては、自治体等にも働きかけ
をおこなう。地域の見守り、つながり強化をおこない、SDGsに合
わせた「地域から貧困をなくす」「気候変動問題を取り上げる」
など「誰もがとり残されないまちづくり」につなげていく。当面
は、フードパントリーと相談窓口の開催回数を増やすことと、常
設のフードバンクの運営を目指します。

虐待を経験した子ども達の居場所・学習・食事提供支援

- ・ 特定非営利活動法人DV対策センター
- ・ 東都生活協同組合

<https://dvtaisaku.jp/>



活動のきっかけ

DVや虐待は高い確率で連鎖し、子ども達の虐待経験率が高くなっている。それを防ぐことが大切であるが、公的サポートが少ない。社会で役に立つ人として育成することを目的に、当団体では、虐待を経験した子どもに居場所・学習支援をおこなう。特に、エンパワメント講座では、暴力容認の思考を変換し、自己肯定感や倫理観を高め、社会で役に立つ人として育成することに寄与する。また、お弁当配布により孤食防止に寄与する。



活動内容概要

- ① 虐待を経験した子ども達（含むヤングケアラー、孤食や不登校の子）の居場所支援・学習支援・食事提供支援をおこなう。学習支援、エンパワメント講座の開催、お弁当配布などをおこなう。
- ② 虐待を経験した子どもの支援について現状と課題、皆ができることなど、生協の組合員さん、フードバンク関連各社を招いて、勉強会をおこなう。東都生協とフードバンク神奈川さんほか、賛同してくださる生協さんとカンファレンスをおこなう。



他団体と協働することで発見したこと

今年度、カンファレンスをおこなうことで、多くの組合員様の関心を寄せていただくことができました。子どもの貧困と言うけれど、実際はどうなっているのか知るすべがなかったと言う方が、こんな現実があることに驚き、また、なにかできることはないかと、食品などを届けてくださったこともあった。カンファレンスの中で、居場所の様子や子ども支援の様子を写真を利用してお伝えすることができ、多くの方に関心を持ってもらえた。

活動において生協が担った具体的な役割

カンファレンスの参加と、組合員様への告知などをおこなってくださった。その他寄付募集の告知もおこなってくださった。告知のお陰で、興味をもってくださいの方が増え、期限が近い食品や着れなくなった洋服などを寄附してくださる方が増え、大変助かりました。カンファレンスでは、東都生協が実際にどのような社会貢献をしているのか、お話ししていただき、組合員様が何ができるのか、という提案もしていただきました。

成果として評価できる点

今年は、虐待を経験して傷ついている子ども達のほか、虐待を受けた末に犯罪を犯してしまった子ども・若者への支援が増えたことが大きな社会貢献につながったと感じている。子ども・若者の居場所支援を定期的におこない、倫理観是正や自己肯定感向上のためのエンパワメント講座を月に2回以上開催することができた。毎回30名前後の母子や若者に参加していただき、ルールを守る大切さや18歳成人になるまでに身につけたいことなどを学んでもらうことができた。エンパワメント講座や学習支援と同時にお弁当配布をおこなうことで、困窮状態にある母子や若者を助ける側面も機能した。組合員に、子どもの貧困の現状などを伝え、社会意識を高めることができた。

将来イメージ

特に今回の助成で犯罪を犯してしまった子ども・若者の中には、倫理観が十分に育っていない子もあり、エンパワメント講座は彼ら・彼女らにとって数少ない、社会で生きていくうえでの正しい倫理観や価値観を学ぶことができる機会となった。そのため、エンパワメント講座はDV・虐待のみならず、再犯のリスクを抑える点でも非常に意義がある活動であると改めて感じる事ができた。今後は、より多くの子ども・若者に届けられるようエンパワメント講座を体系化し、横浜市全域でおこなうことができるよう、目指していく。引き続き不遇な環境にいる子ども・若者への課題意識を多くの方へ持ってもらうように、カンファレンスやセミナーを通じて啓発活動もおこなっていく。

ほっかいどう若者応援★ 学生プロジェクトによる、安定した 子ども食堂の運営と「居場所づくり」や 地域課題へのかかわり

- 北海道生活協同組合連合会
- 連合北海道
- 北海道労働者福祉協議会
- 生活協同組合連合会大学生協事業連合北海道地区

<https://h-wakamono-ouen.amebaownd.com/>



活動のきっかけ

2020年のコロナ禍で学生は経済的に困窮し、子ども食堂は人手不足という課題が生じました。「ほっかいどう若者応援プロジェクト」は、食支援を行う中で、学生のコミュニティ不足や経験機会の損失という、より深い課題を把握しました。そして、これらの課題を同時に解決するため、「★学生プロジェクト」を開始しました。学生が子ども食堂での活動を通じて自身の支援と地域貢献を両立させ、地域との繋がりがや居場所を作ることを目指して活動がスタートしました。



活動内容概要

学生が主体となり、社会貢献と自己成長を実現するため、子ども食堂が抱える課題解決を目指すプロジェクトです。発足から2年、調理補助や学習支援、イベント企画・運営といった多様な形で子ども食堂を直接サポートしています。これらの活動は学生自身の学びを深めると共に、子ども食堂の安定運営に貢献します。現在、11大学・2専門学校等から総勢78名のメンバーが参加し、札幌市内18ヶ所の子どもの食堂との連携を通じて、地域の温かい居場所づくりに力を注いでいます。



他団体と協働することで発見したこと

以前実施した「食の支援」の経験を活かし、4団体が各自の強みを結集しました。明確な役割分担のもと「ヒト・モノ・カネ」という資源確保に注力しました。その結果、趣旨に賛同する多くの企業・団体・個人から温かい寄付・寄贈が寄せられ、学生支援という想いが具体的な形となりました。この成功をいしずえに活動はさらに発展し、現在は学生が社会貢献を実践する新たな舞台を創出しています。

活動において生協が担った具体的な役割

北海道生協連は「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」の事務局として、新メンバーの募集対応、連絡調整、広報、会議運営など、活動推進に必要な基盤を支えています。特に重視しているのは学生の主体性です。学生協同代表3名を委嘱し、運営方針や企画立案は必ず学生と協議、学生が主体的に様々な場で活動できるよう事務局としての役割を担っています。

成果として評価できる点

「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」は、学生が主体となり、子ども食堂を拠点として地域の課題解決に取り組む活動です。私たちは、学生ならではの柔軟な発想力と行動力を活かし、食堂支援に留まらず、ひとり親団体との連携や企業イベントへの出展なども積極的に展開しました。これにより、多くの子どもたちと直接触れ合う機会を創出してきました。これらの実践を通じて、子どもの居場所づくりや食・環境に関する学びの提供といった社会課題に貢献すると同時に、参加学生自身がその意義を実感し成長できる貴重な場となっていると感じています。

将来イメージ

札幌圏での活動をモデルケースとして、「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」の全道展開を目指しています。各地で学生が主体となるプロジェクトを立ち上げ、それらをネットワークで繋がります。この連携基盤を活用し、学生自身が企画・運営する形で子ども食堂支援や地域の居場所づくり、イベント支援といった地域課題解決に貢献します。この取り組みは、学生にとって実践的な活動を通じて地域に貢献できる貴重な機会となると共に、活動の輪が全道に広がることで、各地の課題解決と子どもたちの豊かな育ちを支える環境づくりを力強く推進する原動力となることを期待しています。

地域住民の買い物支援、 高齢者見守りおよび生きがい 創出などの地域支援関連活動

- ・生活協同組合コープあきた
- ・NPO法人南外さいかい市

<https://n-saikaiichi.sakura.ne.jp/>



活動のきっかけ

平成25年にスーパーがなくなり、令和元年に運動会や盆踊りを開催していた南外地域活性化支援協議会の仲間（退職した高齢者）が市の援助を受けながら「南外さいかい市」という公設民営のスーパーを立ち上げた。



活動内容概要

平成25年にスーパーがなくなり、令和元年に公設民営のスーパーを立ち上げた。令和2年からスーパーに来られない人のために移動販売を開始した。そこから見えた食生活改善のため、80歳以上が参加する「おらだのサロン」を令和5年から開設し、利用者からの声から医療機関へのアクセスの不便さを解決するため、令和6年から出張販売を兼ねて医療機関への無料送迎を実施している。



他団体と協働することで発見したこと

大仙市、大仙市社会福祉協議会、婦人会、老人クラブ等と共催することにより、他団体の協力援助を受けることができ、活動の幅を広げることができた。

活動において生協が担った具体的な役割

店舗への商品の提供と陳列の助言や各行事への賞品等の納品をおこなっています。さいかい市店舗はコープあきたの宅配事業と店舗から商品を仕入れ、商品情報などを共有しながら運営をしています。各行事への賞品提供（無償）も継続しました。また、買い物支援や高齢者見守りと居場所づくり活動への協力、おらだのサロンや健康サロンへの講師派遣や企画立案などを協働しています。

成果として評価できる点

高齢者が住みやすい地域として、役割の一端を担っていることと、健康寿命を伸ばす活動につながり、特に医療機関への送迎は一人暮らしの高齢者や家族の仕事の関係で思うように医療機関を受診できない高齢者にとっては効果があった。

将来イメージ

高齢化により山菜や農産物の収穫が難しくなりつつあり、商品が少なくなることにより店舗の行く末にも不安があることから、山菜、農産物の確保が緊急の課題である。山菜、農産物の収集体制の確立と高齢化する生産者の確保が必要になっている。

LFA Japanとコープこうべが 織りなす食物アレルギーに 優しいまちづくり

- 一般社団法人LFA Japan
- 生活協同組合コープこうべ
第2地区本部

<https://lfajp.com/withcommunity.html#Reports>



活動のきっかけ

食物アレルギーに関する理解促進と啓発活動に向けて、専門的な知見や当事者ネットワークとの連携の必要性を感じていた。関西を中心に活動するLFA Japanとのここ数年の連携の中で、食物アレルギーが社会的に大きな課題であることをさらに認識するようになった。直近では、地域住民と共に防災活動を普及促進する共同講演会など数多くのイベントにて接点を持ったことから、食物アレルギー課題を解決すべく、協働を開始した。



活動内容概要

コープこうべコープ西宮南を中心に啓発交流活動を展開しつつ、社会福祉協議会や組合員対象の学びの場を活用し、「誰ひとり取り残すことのない食環境の形成」の実現を目指した。店舗のつどいの場以外に、コープこうべが日ごろから協働している地域の芦屋市市民活動センター、芦屋市社会福祉協議会、子ども食堂ネットワークの方を対象に、地域防災を絡めた形で講演会や試食イベントを実施した。



他団体と協働することで発見したこと

誰一人取り残さない社会の実現に向け、LFA Japanと食物アレルギーの取り組みを協働し、食物アレルギーの当事者が、肩身の狭い思いをしていることが発見でき、特に災害時での食事確保など緊急性が高い場合は非常に大変であることがわかった。コープこうべの食の取り組みでも食物アレルギーのことは語っているが、少しの配慮を心がけることで、食物アレルギーの当事者の方が生きやすくなることも教えられた。

活動において生協が担った具体的な役割

コープこうべが関わりのある子ども食堂やつどい場、フードドライブ活動など社会福祉協議会も巻き込み、食に関係する団体に対して講演提案をおこなった。講座参加者に対して、子どもの買い物ツアーやワークショップを複数の店舗で実施した。より多くの方々に食物アレルギーの知識や食物アレルギー当事者への配慮の仕方を知ってもらうようにした。

成果として評価できる点

講演イベントを通して、目標としていた地域患者会の西宮みやれっこほ一むの認知度をあげることができたため、公民館イベントに声をかけてもらえる関係性を構築できた。また、西宮市の教育委員会や薬剤師会からも、昨年度からおこなっている講座や講演を通して、食物アレルギーの理解を深めたいと講演依頼があり、地域にひろがっていることを実感することができた。講演やワークショップをすることによって、食物アレルギーで困っている当事者がいることや食物アレルギーのある方の苦労を気づいてもらい、表示や、商品選びで少し工夫することで食物アレルギー当事者も食べれるものが作れるなどの意識が確実に高まった。

将来イメージ

コープこうべに買い物にくる幅広い世代を念頭にいれながら、今後も食物アレルギーの気づきの大切さを広めていきたいと考える。引き続き、LFA Japanや地域患者会の西宮みやれっこほ一む、アレルギー専門のクリニック医師らと連携を取り正しい情報の発信を心がけ、買い物にくるお客様だけでなく、コープこうべで食に関わる活動を担う、職員・組合員のアレルギーに関する知識の向上、意識改革をはかりたい。そのことを通じて、イベントや食に関するの組合員活動の際に、できるだけ食物アレルギーへの配慮をできる様に、理解や指導ができる人を増やしていきたい。

食を通して暮らしを豊かに ～多拠点型買い物支援と 移動喫茶活動～

- 東峰村元気プロジェクト
- エフコープ生活協同組合
- 有限会社つづみの里
- 社会福祉法人東峰村社会福祉協議会

<https://toho-shakyo.net/archives/1692>



活動のきっかけ

1. 移動（販売追っかけ）喫茶
令和5年災害でよりあい喫茶を実施していた店舗が被災。
「食をとしてお話する場や情報交換の場の提供」を継続するために、村の移動販売に伴走する喫茶を計画しました。
2. みんなの食堂（地域食堂）
災害前の「よりあい喫茶」では、月1回「コープ商品試食会」により、「食」情報交換の場にもなっていました。スタッフから「地域食堂」の提案があり、実施する方向となりました。



活動内容概要

1. 移動（販売追っかけ）喫茶
村が実施する移動販売に伴走し、買い物に訪れた方とより合う場を提供する青空喫茶を実施しました。買い物状況の把握をおこないながら、買い物客の安否確認や心配事相談などをコーヒーを無料提供しておこないました。
2. みんなの食堂（地域食堂）
村内1箇所です月1回程度の実施を目標に、12月20日に調理者研修、12月26日に試作会、1月11日と3月1日にプレ地域食堂「みんなの食堂」を実施しました。



他団体と協働することで発見したこと

喫茶活動では、以前実施していたつづみの里メンバーが主体として実施したので、喫茶に寄られた方はより深いコミュニケーションと取ることができました。みんなの食堂では、社会福祉協議会との連携により、調理者研修から試食会、プレオープンと順序立ててスタッフの育成をおこなうことができたこと、食堂に参加される子育て世帯の方も安心して参加ができ、想定以上の参加者でした。

活動において生協が担った具体的な役割

全国的な生活協同組合ネットワークを活かし、子ども食堂および地域食堂等の情報提供をおこないました。地域食堂の実施にあたっては、準備段階では運営についてのアドバイスや、当日は運営支援として調理補助や会場設営、配膳等をおこないました。また、当日の料理のバランスを考慮してコープ商品の提供をおこない、地域食堂では配膳時に食事の大切さ等についての啓発をおこないました。

成果として評価できる点

移動（販売追っかけ）喫茶では、買い物に来られる方へ喫茶活動を展開することで、これまで店舗で実施していたよりあい喫茶に来られなかった方へのコミュニケーションを取ることが可能となりました。また、みんなの食堂（地域食堂）を実施したことで、高齢者が中心でおこなった喫茶活動を子育て世代や子どもたちに広げることができ、「普段料理にかけている時間を子どもたちとゆっくりと楽しく食事に使うことができた」とのアンケート結果を得ることができました。調理スタッフも20～70代まで幅広い年代が集まり、参加者も合わせ、高齢者や子育て世代、子どもたちが集う、多世代の交流につながりました。

将来イメージ

移動（販売追っかけ）喫茶は、今回の事業実施後に検証をおこない、移動販売の実施主体である行政と協力体制を取りながら、福祉的意義を高めた移動販売のあり方を提言していくことを検討しております。また、みんなの食堂（地域食堂）は、今回の調理スタッフを中心とした組織化をはかり、継続して取り組んでいけるように体制づくりをおこないます。現在は地域食堂の開催場所は1箇所としておりますが、参加者の動向や年齢層等を鑑み、行政区単位（村内15地区）で開催をできる仕組みづくりを検討していきます。地域食堂の持続については、村内事業者からの寄付や農家からの野菜の提供、管内のフードバンクに加入を検討し、食品提供の安定化はかってまいります。

あったかフードバンク大泉

- ・ 東京保健生活協同組合
- ・ あったかフードバンク大泉

<https://tokyo-health.coop/activities/forsocialproblem/foodbankpantry/oizumi.shtml>



活動のきっかけ

2020年の新型コロナウイルス感染症の蔓延による、経済的困窮の広まりから、当生協の組合員が作る委員会議内で、食糧支援の必要性について議論が始まり、組合員有志で実行委員会を結成しました。2021年3月から、食糧支援活動を開始し、その後も、ロシアによるウクライナ侵攻や円安などを要因とする物価高騰が相次ぎ、食糧支援活動を継続しています。



活動内容概要

毎月第3金曜日に、大泉生協病院前の組合員ルームを使用し、120~150人の利用者にレトルト食品、野菜、お米を中心にした食糧支援をおこなっています。当日に取りに来られない利用者には、配達や置き置きもおこなっています。また、今年度からは大泉生協病院前（雨天荒天時は組合員ルーム二階）で血圧、体脂肪、握力を測定する健康チェックを開催しています。



他団体と協働することで発見したこと

東都生協やパルシステム東京などの購買生協は、フードバンクへの関心が非常に高く、余剰野菜などを使つてのフードバンクへの支援の方法を常に考えていることがわかり、今後もフードバンクを通じて、協働を深めていけると感じました。また、社協など区とつながりのある施設が、困窮者支援のためにフードバンクとのつながりを模索していることもわかり、今後もフードバンクへの品物の寄付など、協働が期待できることがわかりました。

活動において生協が担った具体的な役割

開催当初は開催時の感染対策指導をし、感染対策に努めました。また、組合員ルームや大泉生協病院前の開催場所を提供し、フードバンクには大泉生協病院の医療ソーシャルワーカーをはじめとした、病院内社保委員会のメンバーが常駐し、利用者の健康チェックや生活相談の受付などもおこなっています。

成果として評価できる点

あったかフードバンク大泉は毎月定例開催しており、開催時の人数を必ず把握しています。第一回は30人ほどだった利用者が、現在は配達・置き置きも含めると150人に近い月があるなど、利用者はかなり増えています。また、参加者には練馬区外から来られている方もおり、多くの方が継続してフードバンクを利用しています。こうした実態から、困窮者が困窮状態から脱却することが容易ではなく、困窮そのものは都内に満遍なく広まっているという社会的実態が把握できることが、成果として挙げられます。

将来イメージ

将来的には、協力団体との協働をさらに深めていき、さまざまところから実行委員を迎え、困窮者を支援する体制をより強化していきたいと考えています。現在、あったかフードバンク大泉を取り巻く環境として、物価高騰による品物調達難の難化と、利用者増による実行委員への負担増の問題があります。それらを解決する糸口として、現在協力をいただいている団体との協働をさらに深め、フードバンクを共同で開催し、実行委員を協力団体から招き入れ、困窮者支援をより安定して開催していけるような体制づくりをすすめていきたいと考えています。

地域ささえあい助成 2024年度フレンドリーサポートについて

フレンドリーサポートとは？

助成先団体に対してアンケートや双方向的なヒアリングを通じて活動の状況や助成金の活用状況を何う取り組みを実施しております。助成する・されるという関係にもとづく一方的なヒアリングではなく、お互いに学びあえる機会として実施しており、事務局も助成金活用団体の皆様から学ばせていただきながら、皆様とともにより良い制度を作っていきたいと考えています。

フレンドリーサポートの実施概要

2024年度の助成先32団体を対象にアンケートを実施しました。その結果をふまえながら、はじめてお話を何う団体を中心とした14団体を対象に、オンラインでヒアリングを実施しました。

フレンドリーサポートにおいて意見交換をしたテーマ

次の3つのテーマについて意見交換をおこないました。

- 1 活動の状況および助成金の活用状況
- 2 協働・連携の状況
- 3 当該年度または次年度以降の展望

フレンドリーサポートによって得るものと活用方法

各活動において様々な課題に悩みながらも生協と地域が協働することで、活動を発展させる様子を何うことができます。また、助成金の活用状況や将来の展望を何うことで、各活動の発展・前進に助成金がどのように寄与できているかを知ることができる貴重な機会になります。これまで応募用紙でしかわからなかった活動内容がヒアリングを通じて詳細に知ることができ、より地域にとって必要な活動である様子を知ることができます。活動の悩みをお伺いすることで、事務局よりアドバイスができることもありますし、そこに事務局が皆様の活動に貢献できることのヒントも隠されています。また、オンラインですが、お顔を拝見して意見交換をおこなうのは、メールや応募用紙だけの関係より1歩すすんだものになり、親近感が湧くことから活動にも近づけるように感じます。フレンドリーサポートの結果は、審査委員にも共有し、次年度の審査においても、活動内容の理解を深めたくうえで審査をすることができます。

フレンドリーサポートを実施した団体の事例

(1) 活動名：誰でも利用できるブックカフェと予約のいらない子ども食堂の運営

| 協働団体 | だーこキッチン-生協コープみえ |
|--------------------|--|
| ① 活動の状況および助成金の活用状況 | だーこキッチンは他の子ども食堂とは違い、予約不要でいつでも誰でも気軽に来られるようにしている。ボランティアの確保が課題で、特に夏休み期間のお弁当配布でサポートしてくれる人がいたらよかった。参加者の中に一緒に働きたいと言ってくれる人はいるが、子育て世代のためか、ボランティアではなく有償で働きたいという声が多く、ボランティアをコープみえの組合員に募集をかけたが、テレビ局や新聞社の取材を受けたりしているが、ボランティアの確保にはつながらなかった。しかし、お米や本の寄付をいただけただけで、非常に助かった。助成金の活用状況は計画通りにすすんでいる。 |
| ② 協働・連携の状況 | 協働先のコープみえは子ども食堂への物資支援と広報を担っている。今後は共同サロンの実施を予定している。協働団体ではないが、社協が年数回団体を集めて企画をおこなっているため、その際に話をして情報を得ている。 |
| ③ 当該年度または次年度以降の展望 | 様々な活動を検討している。一つ目は、現在大学生になって全国各地にいる子ども食堂に来ていた学生が教師になり、だーこの自習室を活用したオンライン家庭教師をおこなうことを考えている。二つ目は、だーこキッチンを学童化することを考えている。三つ目は、6月に設立しただーこ不動産で、空き家を使用した街づくりをおこない、地域の方が居場所作りを始めるときや、起業をしたいときなどに貸せるようなテナントを仲介する。また、新大学生のアパート探しのお手伝いもおこなう予定。 |

(2) 活動名：コープのびのび・びよびよクラブ

| 協働団体 | 広島中央保健生協-ふくしま文庫 |
|--------------------|---|
| ① 活動の状況および助成金の活用状況 | のびのびクラブを23回開催、各回10組程度参加者がいる。そこでは、劇団を観劇するイベントやミニ講座でストレッチや医療の教養講座をしている。びよびよクラブは5回開催しており、子育て世代の取り組みを広げるためにもっと活動を大きくしたいと考えている。活動は県と連携して、保健医さんを通しての広報や公式ライン、組合員さんの口コミで広めている。 |
| ② 協働・連携の状況 | 協働先のふくしま文庫には、月1回ののびのびクラブに参加して読み語りを開催してもらっている。そこで気になった本は、広島保健生協から徒歩5分で行けるふくしま文庫の図書館で借りられる。ふくしま文庫を訪れた方にのびのびクラブ等を紹介してもらっている。 |
| ③ 当該年度または次年度以降の展望 | のびのびクラブ、びよびよクラブは現在の定期開催だと「親の助けにならないのでは」という課題があるので、回数を増やすことを検討している。組合員活動を3人以上で開催する場合に、援助金と部屋を貸し出している。これを参加者に広め、親の心身の健康の手助けをしたい。10月に地域の子どもを招待して、ふくしま文庫と協力して読み語りの会を開催予定。今後は子どもの見守りボランティアを増やして、様々な参加者とつながりを作っていきたい。 |

2024年度「CO・OP共済 地域ささえあい助成 団体交流会」開催報告

地域ささえあい助成では、助成金活用生協・団体の皆様との「学びあいと交流の場の提供」を目的として毎年、「団体交流会」を開催しております。

2024年度は「協働をはじめ、協働をひろめる。そして協働をたかめる。」をテーマに、協働を深めて社会課題解決をするためにはどうすればよいのかを交流しながら各自が考える機会として、開催しました。

開催日時

2024年10月25日(金) 13:00~16:30 オンライン開催
(当日参加できなかった方に向けて、後日、録画データの配信をおこないました。)

参加状況

助成金活用生協・団体…20生協27団体 59名
事務局…14名、審査委員…6名、講師…1名、オブザーバー…8名
合計88名

開催内容

① 開会挨拶 コープ共済連 総合マネジメント本部本部長 国分 聡人

② 基調講演

講師: 松原 明 氏 (協力アカデミー代表)

講演テーマ: 「協働を深め社会課題解決を進めるためのスキルとは」

「協働を深め社会課題解決を進めるためのスキルとは」をテーマに、昨年に引き続き、松原 明氏にご講演をいただきました。協力してほしい相手の「困りごと」「目的」を理解し、自身の活動がその解決に役立つように設計する「相利開発」と「協力者理解」のスキルについての講演は参加者から多くの反響があり、講演後の質疑応答等でも活発に意見交換が交わされました。

<参加者の声 (一部抜粋)>

- ・ これまでは、他組織との協働の前提は「give and take」だと考えていたが、「相利」が協力のキモであると教えていただいたこと。協力をして目的を達成したときお互いが何を得られるか。今後はこれをおこないながら、協力の仕組みをつくっていきます。
- ・ 「相利協力」の考え方はぜひ自組織で伝えていきたい (伝えていかねば) と思いました。地域猫活動のお話もわかりやすかったです。迷惑やトラブルの種もちょっとした工夫・コミュニケーションの仕組みでみんなハッピーになりますね。

【松原 明 氏】



3 活動報告

| NO | 活動名称 | 協働団体 |
|-----|---------------------------------------|--|
| i. | あまがさき住環境支援REFUL（リーフル）における『居住支援の隙間の支援』 | ・生活協同組合コープこうべ ・認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ ・一般社団法人officeひと房の葡萄 |
| ii. | 出前のびすく（地域における乳幼児親子の居場所づくり） | ・特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク ・みやぎ生活協同組合 |

<参加者の声（一部抜粋）>

- ・地域課題や困りごとへの接点を増やすためにも、もっと地域に出ていかないとダメだなと思いました。社会課題はたくさんあるので、言葉を選ばなければ、生協のネットワークや資源をいかに利用してもらうか、架け橋にならねばという思いが湧いてきました。

4 分散会交流+全体交流

少人数のグループに分かれ、以下をテーマに分散会交流をおこないました。

- 基調講演、活動報告を受けての感想、取り入れてみたいこと
- 同じグループの人に聞いてみたいこと

<参加者の声（一部抜粋）>

- ・様々な業種、世代の協働相手との連絡手段や情報共有手段に悩んでいましたが、たくさんのアドバイスをいただけたので大変助かりました。何より、和やかな雰囲気での分散会で、とても楽しく参加させていただきました。

5 閉会挨拶 日本生協連 組織推進本部 社会・地域活動推進部 部長 片野 緑

参加者の声

- ◎ 助成金という活動資金の面だけでなく、活動の困りごとまで関わって、一緒に勉強して成長していけることが、とても生協らしいと感じます。

【団体交流会参加者のスクリーンショット】



特集

『協同のちからでよりよい世界を実現します』



2025年は『国際協同組合年』です。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

協同組合とは？

協同組合は、共通のニーズや願いを持った人同士が自発的に集まって、事業を通してそれを実現する組織です。

出資金という形で自分たちで元手を出し合い、組合員となって事業を利用し、組合員として運営にかかわっています。

国連は、2023年12月の「社会開発における協同組合」と題する総会決議の中で2025年度を**国際協同組合年**と決めました。

協同組合の人間らしい雇用の創出、貧困と飢餓の解消、教育、社会的保護、金融包摂、手頃な価格の住宅、包摂的な社会の構築などへの貢献を支援することを求めています。



JCA（日本協同組合連携機構）のご紹介

一般社団法人 日本協同組合連携機構（JCA）は、協同組合の健全な発展と持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくりを目的に発足した日本の協同組合を横断する唯一の常設法人組織です。国際協同組合年では、全国実行委員会の事務局を担い様々な情報発信を行っています。

詳しくはコチラ



CO・OP共済が取り組む様々な社会活動のご紹介

一緒につくる **明日の暮らし** ～CO・OP共済2030～



CO・OP共済はみんなの力でつながり、ささえあい、組合員と家族によりそい、新しい“たすけあいのかたち”とよりよい明日の暮らしを一緒につくります。

「CO・OP共済のめざすもの」の中で、CO・OP共済は、少子高齢化、健康、福祉の問題を積極的に受け止め、社会福祉活動・災害時の対応等の社会貢献をおこなうことを掲げて、剰余金の一部を財源として社会貢献活動をおこなっています。

スポーツを通じた社会貢献の取り組み



コープ共済連では2019年から継続して公益財団法人日本障害者スキー連盟とゴールドパートナー契約を締結し、関連するイベントなどへ協賛、応援しています。

また『高校サッカー』に協賛して大会応援CMや決勝戦での応援グッズの配布を通じて、全国高校サッカー選手権大会を応援しています。

詳しくはコチラ



ランドセルカバー寄贈



全国の自治体と連携して、2015年度から全国の新一年生に向け、ランドセルカバーの寄贈をおこなっています。よく目立つカバーは地域の方々に見守っていただくための目印にもなり、交通事故防止に役立っています。

CO・OP共済マイページ利用・登録を通じた寄付の取り組み



CO・OP共済の契約者がオンライン上で手続きができる「共済マイページ」の利用や新規登録の件数をもとに、コープ共済連から子供や学生を支援する団体へ寄付をおこなう『子ども・学生未来応援プロジェクト』の取り組みをしています。

CO・OP共済 地域ささえあい助成 2024年度 活動報告集

発行日：2025年6月

発行元：日本コープ共済生活協同組合連合会
総合マネジメント本部 組合員参加推進部
組合員参加・社会貢献活動グループ
地域ささえあい助成事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
電話 03-6836-1324
メール contribution@coopkyosai.coop
CO・OP共済オフィシャルホームページ
<https://coopkyosai.coop/csr/socialwelfare/>



CO・OP共済

SNS公式アカウント



facebook フェイスブック



Instagram インスタグラム

X エックス



LINE ライン

YouTube ユーチューブ



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C170021



この製品はノンVOC
インキを使用し、エコ
UV印刷機で印刷して
います。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。